

授業科目名： 線形代数学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡瀬 泰成
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 行列や行列式などの線形代数学の基本概念および固有値，固有ベクトルの概念を理解し，応用 場面でその解釈ができるようになる。また，授業内容を第三者に対して簡単に説明できるよ うになる。			
授業の概要 本講義では，代数構造の理解において基本となる線形代数学の概念を学ぶ。特に，固有値と固 有ベクトルはデータ分析における主成分分析（PCA）で用いられ，データの特徴抽出や回帰分 析などにおいて重要な役割を果たす。また，ニューラルネットワークにおける重み行列や最適 化手法においても線形代数は不可欠である。これらの数理的視点を応用し，データの構造理解 や問題解決手法の基礎を身につけることを目指す。授業では，線形代数学をより深く理解す るために数式処理ソフトMapleも補助的に利用する。			
授業計画 第1回：数空間とベクトル（線形結合，1次独立，1次従属，基底等） 第2回：行列とは（スカラー倍とは） 第3回：行列の演習（2次の回転行列の為す群） 第4回：基本変形とガウスの消去法 第5回：基本変形と階数（ランク） 第6回：ベクトルの内積と外積，直交化とその幾何的意味，ベクトル空間 第7回：線形写像，行列による線形写像の表現 第8回：線形（ベクトル）空間と部分空間 第9回：行列式（置換，explicitな定義） 第10回：行列式（implicitな定義） 第11回：固有値と固有ベクトル 第12回：重複度のある固有値と固有ベクトル 第13回：対角化，対角化可能性とJordan標準形 定期試験 ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 明解 線形代数 改訂版 木村，竹内，宮本，森田著 日本評論社			

参考書・参考資料等

データサイエンスのための数学 椎名, 姫野, 保科著 講談社

学生に対する評価

授業時の簡単な小テスト(30%)および定期試験(70%) 成績評価にはルーブリックを用いる.

授業科目名： 線形代数学演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡瀬 泰成
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 線形代数学の講義に付随した問題演習を通じて、行列、行列式、固有値、固有ベクトルに関する具体的な問題が解けるようになる。また、これらの幾何的・代数的な意味を理解する。			
授業の概要 線形代数学は、主成分分析やニューラルネットワークなど、データサイエンスの手法を理解する上で不可欠である。本科目では、線形代数学の講義に付随した問題演習を行うことで、その知識をデータサイエンスに応用できるようなることを目指す。授業では、線形代数学をより深く理解するために数式処理ソフトMapleも補助的に利用する。			
授業計画 以下の講義の項目に即した問題演習を実施する 第1回：数空間とベクトル（線形結合，1次独立，1次従属，基底等） 第2回：行列とは（スカラー倍とは） 第3回：行列の演習（2次の回転行列の為す群） 第4回：基本変形とガウスの消去法 第5回：基本変形と階数（ランク） 第6回：ベクトルの内積と外積，直交化とその幾何的意味，ベクトル空間 第7回：線形写像，行列による線形写像の表現 第8回：線形（ベクトル）空間と部分空間 第9回：行列式（置換，explicitな定義） 第10回：行列式（implicitな定義） 第11回：固有値と固有ベクトル 第12回：重複度のある固有値と固有ベクトル 第13回：対角化，対角化可能性とJordan標準形 定期試験 ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 明解 線形代数 改訂版 木村，竹内，宮本，森田 日本評論社			
参考書・参考資料等 データサイエンスのための数学 椎名，姫野，保科 講談社			
学生に対する評価			

演習課題（難易度加味）を解答した回数及びその解法内容（40%）、簡単な小テストおよび定期試験（50%）、また、2月に実施される工学英数学統一試験（EMaT：受験料無料）を受験した結果等も参考にする（10%）。成績評価にはルーブリックを用いる。

授業科目名： 幾何学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡瀬 泰成
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、図形などの幾何学的対象を例として、角度や長さ、面積の性質などの概念を自らの手で少しずつ図を描きながら理解し把握することを学ぶ。以下を到達目標とする：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学、高校で学ぶ平面幾何の定理や問題に証明が付けられるようになる。</li> <li>・平面上、空間の中の幾何学的対象を正確に把握し、自身の手で描画できるようになる。</li> <li>・幾何学的な性質で対象（図形、曲線、曲面）が分類されることを理解する。</li> <li>・データサイエンス関連から2次元の単体・複体を学び、位相的にデータを扱う方法を理解する。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、幾何学の主要な分野についてその基本概念を学ぶ。講義前半はユークリッド幾何を取り上げる。自力で問題を解答できるように演習を課しながら解答を検討することで、公理、定義から推論する論証力を養う。また、図形を黒板や紙に描く機会を設け平面や空間上の対象を正確に把握する練習を設ける。後半は、微積分と関連した解析幾何、線形代数と関連したアフィン幾何、さらに射影空間や位相幾何を取り上げる。位相幾何では、トポロジーの初歩と複体を利用したデータの分類の方法を紹介し幾何学がデータサイエンスにおいても有用なことを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：初等幾何に挑戦。なぜ解けないのか、なぜ解けたのか、証明のしくみ（背理法と対偶）</p> <p>第2回：ユークリッド幾何（1）公理系と推論</p> <p>第3回：ユークリッド幾何（2）平面幾何の定理と問題</p> <p>第4回：ユークリッド幾何（3）作図不能問題</p> <p>第5回：ユークリッド幾何（4）3角関数の定理</p> <p>第6回：解析幾何（1）距離空間</p> <p>第7回：解析幾何（2）微分幾何の初歩</p> <p>第8回：アフィン幾何（1）定義と座標</p> <p>第9回：アフィン幾何（2）図形の変換と行列・変換で不変なもの</p> <p>第10回：射影幾何 射影空間とアフィン空間の相違点</p> <p>第11回：位相幾何（1）トポロジーとは：単連結・弧</p> <p>第12回：位相幾何（2）穴の開いた平面図形の分類・境界・類別</p> <p>第13回：位相幾何（3）2次元複体・ホモロジー群／データからの複体をつくる</p>			

定期試験
※1回あたりの授業時間は105分
テキスト
幾何への誘い 小平邦彦 岩波現代文庫—学術
参考書・参考資料等
授業中に適宜配付する。中高の教科書や問題集も参考にします。
学生に対する評価
授業への参加度（発表・発言等）（50％） 定期試験(50％)

授業科目名： 応用数学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡瀬 泰成
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 組合せ論，格子点の幾何，微分方程式，最適化問題について，その基本および応用の概念を理解し，授業内容を第三者に対して簡単に説明できるようになる。			
授業の概要 本講義では，データサイエンスを学ぶ上で重要となる応用数学の中から，以下の内容を中心に学ぶ。講義前半では，離散的な対象として「組み合わせの数」や「格子点の幾何」を扱い，連続的な対象として，微分方程式を用いて現象を記述する方法を扱う。講義後半では，最適化問題を取り上げ，その基本概念や機械学習における応用について学ぶ。なお，授業では，LMS上のeラーニング教材や数式処理ソフトを用いて数理解の深化を目指す。			
授業計画 第1回：集合の分割・商集合・類別（群と有限体） 第2回：組み合わせの数（組み合わせ論的確率） 第3回：格子点と図形（定義と基本的性質） 第4回：格子点と図形（平面の分割） 第5回：微分方程式と数理モデル(1) 微分方程式の復習・数理モデル 第6回：微分方程式と数理モデル(2) 物理現象（質点の力学、ばねの振動など） 第7回：微分方程式と数理モデル(3) 生物現象（個体増殖、感染症の伝播など） 第8回：最適化問題とは何か 第9回：凸集合（勾配ベクトルやヘッセ行列） 第10回：線形計画法 第11回：非線形計画法（制約条件なし） 第12回：非線形計画法（制約条件あり） 第13回：機械学習における最適化問題（データの分類・線形分離） 定期試験 ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 前半は適宜ハンドアウトを用意する。後半では以下を用いる： 工学基礎 最適化とその応用[第2版] 矢部博著 サイエンス社			
参考書・参考資料等			

グラフ理論とフレームワークの幾何 前原, 桑田著 共立出版

微分方程式と数理モデル～現象をどのようにモデル化するか～遠藤雅守, 北林照幸著

学生に対する評価

演習レポートの解答内容・理解度 (50%) . 定期試験 (50%)

授業科目名： 微分積分学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡瀬 泰成
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 初等関数の微積分，多変数関数の微積分，微分方程式について，その基本および応用の概念を理解し，授業内容を第三者に対して簡単に説明できるようになる。			
授業の概要 微積分は，最適化問題や微分方程式などの基礎をなすものであり，データサイエンスにおいても重要な役割を果たしている．本講義を通じて，微分積分学の基礎理解を深めるとともに，データサイエンスへの応用にも視野を広げることを目指す．授業では，微分積分学をより深く理解するために数式処理ソフトMapleも補助的に利用する．			
授業計画 第1回：実数，数列の極限と連続性 第2回：関数の連続性とその微分法と導関数 第3回：初等関数の微分，テーラー展開 第4回：積分の概念，初等関数の積分 第5回：定積分と定積分の応用 第6回：級数の収束と発散，冪級数 第7回：多変数の関数 第8回：偏微分と偏導関数及び偏導関数の応用（極値問題） 第9回：逐次積分，2重積分 第10回：極座標，3変数の積分 第11回：微分方程式とその解法 第12回：求積法と一階微分方程式 第13回：常微分方程式・線形微分方程式とその解法 定期試験 ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト すべての人の微分積分学 小山，中島著 日本評論社			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する．			
学生に対する評価			

定期試験（80%），授業時の（小）テスト（20%）．成績評価にはルーブリックを用いる．

授業科目名： 微分積分学演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡瀬 泰成
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 微分積分学の講義に付随した問題演習を通じて、初等関数の微積分、多変数関数の微積分、微分方程式に関する具体的な問題が解けるようになる。			
授業の概要 微積分は、最適化問題や微分方程式などの基礎をなすものであり、データサイエンスにおいても重要な役割を果たしている。本科目では、微分積分学の講義に付随した問題演習を行うことで、その知識をデータサイエンスに応用できるようになることを目指す。授業では、微分積分学をより深く理解するために数式処理ソフトMapleも補助的に利用する。			
授業計画 以下の講義の項目に即した問題演習を実施する 第1回：実数、数列の極限と連続性 第2回：関数の連続性とその微分法と導関数 第3回：初等関数の微分、テーラー展開 第4回：積分の概念、初等関数の積分 第5回：定積分と定積分の応用 第6回：級数の収束と発散、冪級数 第7回：多変数の関数 第8回：偏微分と偏導関数及び偏導関数の応用（極値問題） 第9回：逐次積分、2重積分 第10回：極座標、3変数の積分 第11回：微分方程式とその解法 第12回：求積法と一階微分方程式 第13回：常微分方程式・線形微分方程式とその解法 定期試験 ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト すべての人の微分積分学 小山，中島著 日本評論社			
参考書・参考資料等 データサイエンスのための数学 椎名，姫野，保科著 講談社			
学生に対する評価			

演習課題（難易度加味）を解答した回数及びその解法内容（10%）、（小）テスト／簡単な筆記試験（50%）、定期試験（30%）また、12月に実施される工学英数学統一試験（EMaT：受験料無料）を受験した結果等も参考にする（10%）。成績評価にはルーブリックを用いる。

授業科目名： 統計入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高部 勲
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 統計学・確率論の基本的な事項について理解し、説明することができる。			
授業の概要 近年、ビジネスや政策立案など様々な分野において、データに基づく意思決定が重要視されるようになってきている。本講義では、こうした考え方の基礎となる統計学・確率論の基本的な事項（統計学の役割、データの整理と可視化、確率変数・確率分布、統計的な推測・仮説検定など）について学ぶ。			
授業計画 第1回：統計学の基本（統計学の役割、記述統計と推測統計 など） 第2回：データの種類（質的・量的データ、データの尺度、母集団と標本 など） 第3回：データの整理と可視化①（度数分布とヒストグラム、平均値・中央値・最頻値 など） 第4回：データの整理と可視化②（分散・標準偏差、四分位数、データの標準化、箱ひげ図 など） 第5回：データの整理と可視化③（散布図、相関関係、相関係数 など） 第6回：回帰分析の基本（相関と回帰、回帰直線、最小二乗法 など） 第7回：確率の基本（確率変数・確率分布、条件付確率と独立、ベイズの定理 など） 第8回：代表的な確率分布①（二項分布、ポワソン分布 など） 第9回：代表的な確率分布②（正規分布、標準正規分布、標準正規分布表の利用 など） 第10回：標本分布（カイ二乗分布、t分布、F分布 など） 第11回：統計的推定（点推定と区間推定、母平均・母分散の推定 など） 第12回：統計的仮説検定（統計的仮説検定の種類・考え方、代表的な仮説検定の方法 など） 第13回：統計学の応用（判別分析・主成分分析・因子分析の基本 など） 定期試験 ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 『ビジュアルでわかる統計学のキホン』高部勲（エムディエヌコーポレーション）2023年			
参考書・参考資料等 授業時に適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価 定期試験（50%）、授業内小テスト・授業への取り組み姿勢（50%）で評価する。			

授業科目名： 統計学および実習 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：担当教員名： 大木 有、杉浦 拓也、豊嶋 紘一
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報統計学の基本的な手法，考え方を習得する。</li> <li>・与えられたデータの整理・傾向把握を行い，その内容を解釈することができる。</li> <li>・自ら見つけた課題に対し，情報統計手法を適用して解決し，その内容を表現することができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では，実際に「統計学」で学ぶ情報データの統計的記述法（データの分類，分布の中心と広がりについての基本統計量，散布図の作成と相関係数，確立変数と確率分布）に関する問題を解き，主体的に問題を解決する能力を身につける。また，与えられた問題だけではなく，学生自らが身近な問題を見つけ，学んだ情報統計手法の適用を試みる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>【第1回】母集団と標本</p> <p>【第2回】度数分布表とヒストグラム</p> <p>【第3回】代表値</p> <p>【第4回】広がり の 尺度</p> <p>【第5回】散布図と相関係数</p> <p>【第6回】相関関係と因果関係</p> <p>【第7回】確率、条件付き確率とベイズの定理</p> <p>【第8回】確率変数と確率分布</p> <p>【第9回】二項分布とポアソン分布</p> <p>【第10回】正規分布</p> <p>【第11回】大数の法則</p> <p>【第12回】中心極限定理</p> <p>【第13回】多次元の確率分布</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
テキスト			

授業時に適宜配付する

参考書・参考資料等

Pythonで理解する統計解析の基礎 谷合廣紀 技術評論社

情報統計学 向谷博明 デザインエッグ

学生に対する評価

授業への取り組み姿勢 (30%)、授業内課題 (70%)

授業科目名： 統計学および実習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：担当教員名： 大木 有、杉浦 拓也、豊嶋 紘一
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代統計学の基本的な手法，考え方を習得する。</li> <li>・与えられたデータの整理・傾向把握を行い，解析結果についてその内容を解釈および説明することができる。</li> <li>・パラメトリック／ノンパラメトリックによつてのデータの扱いを見分けられる。</li> <li>・自ら見つけた課題に対し，プログラミングや各種統計ソフトを適用して解決し，その内容を表現することができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では，「統計学Ⅱ」で学習した内容についての理解をさらに深めるための実習を行う。演習課題によってグループワークを実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>【第1回】母集団分布（確率論の基礎（確率変数、正規分布等）、正規母集団と標本を含む）</p> <p>【第2回】点推定の例</p> <p>【第3回】最尤推定の例</p> <p>【第4回】母平均の区間推定</p> <p>【第5回】母比率の区間推定</p> <p>【第6回】母平均の差の区間推定</p> <p>【第7回】仮説検定の考え方</p> <p>【第8回】仮説検定の手順</p> <p>【第9回】母平均の仮説検定（t検定、U検定）と検出力</p> <p>【第10回】母比率の仮説検定</p> <p>【第11回】母平均の差など2組のデータの比較（相関係数を含む）</p> <p>【第12回】適合度検定と独立性の検定</p> <p>【第13回】分散分析</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
テキスト			

授業時に適宜配付する

参考書・参考資料等

Pythonで理解する統計解析の基礎 谷合廣紀 技術評論社

情報統計学 向谷博明 デザインエッグ

学生に対する評価

授業への取り組み姿勢 (30%)、授業内課題 (70%)

授業科目名： 統計学および実習Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 高部 勲
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 多変量解析の手法（回帰分析，主成分分析，因子分析，クラスター分析，決定木など）について理解し，説明することができる．さらに，与えられたデータの内容を把握した上で，適切な手法を選択し，基本的な統計解析ソフトウェアを用いて分析を行うことができる．			
授業の概要 本講義では，複数の変数からなる多変量データを整理・要約し，データの背後にある構造を把握し，推測・予測を行うための多変量解析の手法（回帰分析，判別分析，主成分分析，因子分析，クラスター分析など）について学ぶ．合わせて，EXCEL，Rなどを用いた実習を行う．			
授業計画 第1回：多変量解析の基礎（多変量データの特徴，多変量解析の考え方・方法， など） 第2回：回帰分析①（回帰分析の考え方，単回帰分析，重回帰分析，最小二乗法 など） 第3回：回帰分析②（回帰分析における検定，モデルの評価 など） 第4回：回帰分析③（多重共線性，変数の選択，変数変換 など） 第5回：判別分析（線形判別分析，非線形判別分析，判別関数による予測 など） 第6回：ロジスティック回帰分析①（ロジスティック回帰分析の考え方，最尤法 など） 第7回：ロジスティック回帰分析②（ロジスティック回帰分析に基づく予測，モデルの評価 など） 第8回：主成分分析①（主成分分析の考え方，固有値・固有ベクトルの復習 など） 第9回：主成分分析②（主成分分析の計算方法，寄与率，主成分得点 など） 第10回：因子分析（因子分析の考え方，因子負荷量，因子の回転，因子分析と主成分分析 など） 第11回：クラスター分析①（階層的クラスター分析，データ間の距離，デンドログラム など） 第12回：クラスター分析②（非階層的クラスター分析，K-means法 など） 第13回：決定木（決定木の考え方，分岐ルール，枝刈り，ランダムフォレスト など） 定期試験 ※この授業は，1回につき2時限授業を行う。 ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 授業時に適宜、資料を配布する。			
参考書・参考資料等			

『多変量解析のはなし』大村平（日科技連）1985年

『多変量解析のはなし』有馬哲，石村貞夫（東京図書）1987年

『入門多変量解析の実際』浅野熙彦（講談社）2000年

『よくわかる多変量解析の基本と仕組み』山口和範，高橋淳一，竹内光悦（秀和システム）  
2004年

学生に対する評価

定期試験（50%），授業内小テスト・授業への取り組み姿勢（50%）で評価する。

授業科目名： 数理モデリングとシミュレーション	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 成塚 拓真
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論・統計学」		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 数理モデリングに必要な数学・統計学・物理学の知識を身に付ける。</p> <p>(2) 具体的な数理モデルをPythonによって実装し、シミュレーションができるようになる。</p> <p>(3) 数理モデルの解析から得られた結果を適切に解釈できるようになる。</p>			
授業の概要			
<p>様々な現象から取得したデータを基に、予測や制御あるいはデータ生成メカニズムの解明を行うには数理モデリングとシミュレーションの手法が用いられる。本講義では、統計モデル、確率モデル、物理モデルなどの中からいくつかの代表的な数理モデルを取り上げ、その解析法やコンピュータを用いたシミュレーションの手法を学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>【第1回】 ガイダンス、プログラミング環境の構築、Pythonの基礎</p> <p>【第2回】 確率モデル（1）：ベルヌーイ過程と様々な確率分布</p> <p>【第3回】 確率モデル（2）：大数の法則と中心極限定理</p> <p>【第4回】 確率モデル（3）：乱数の生成</p> <p>【第5回】 確率モデル（4）：マルコフ連鎖</p> <p>【第6回】 統計・機械学習モデル（1）：線形回帰と最小二乗法</p> <p>【第7回】 統計・機械学習モデル（2）：最尤推定法</p> <p>【第8回】 統計・機械学習モデル（3）：ポアソン回帰</p> <p>【第9回】 統計・機械学習モデル（4）：ロジスティック回帰</p> <p>【第10回】 微分方程式モデル（1）：微分方程式の基礎</p> <p>【第11回】 微分方程式モデル（2）：自然現象における代表的な微分方程式</p> <p>【第12回】 微分方程式モデル（3）：社会現象における代表的な微分方程式</p> <p>【第13回】 微分方程式モデル（4）：微分方程式の数値計算</p>			
定期試験は実施しない			
テキスト			
授業中に独自教材を配布する			
参考書・参考資料等			
データ分析のための数理モデル入門，江崎貴裕，ソシム，2021			

Pythonコンピュータシミュレーション入門, 橋本洋志・牧野浩二, オーム社, 2021

データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門, 阿部真人, ソシム, 2021

学生に対する評価

3回のレポート (80%) と授業への取り組み姿勢 (20%) により評価する

授業科目名： 情報処理の基礎Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大木 有、杉浦 拓也、豊嶋 紘一
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標 社会で必要とされる情報リテラシーを深く理解する。			
授業の概要 AIが急速に発展・普及する社会を生きるために必要な情報リテラシーの発展的部分をLMSを補助的に利用しながら学修する。本授業は、ただ1回の欠席でパソコン上の操作がわからなくなり、授業についてゆけなくなる可能性があるので注意を要する。			
授業計画 【第1回】情報収集と利活用1（ChatGPT、検索エンジンなど） 【第2回】情報収集と利活用2（論文検索ツール）、OneNoteの利用 【第3回】メール作成、テキストエディタ、オンライン会議ツールの利用と留意点 【第4回】表計算ソフト1（関数を使った計算） 【第5回】表計算ソフト2（関数を使った検索） 【第6回】表計算ソフト3（データの前処理・整理） 【第7回】文書作成ソフト1（文書作成、数式エディタ） 【第8回】文書作成ソフト2（校閲、AIの活用） 【第9回】文書作成ソフト3（レポート作成） 【第10回】プレゼンテーションソフト1（数式エディタ、デザイン、アクセシビリティ） 【第11回】グループワーク1（レポート作成） 【第12回】グループワーク2（スライド作成） 【第13回】グループワーク3（発表） 定期試験は実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 授業時に適宜配付する			
参考書・参考資料等 【改訂第3版】基礎からわかる情報リテラシー 奥村一森本 技術評論社			
学生に対する評価			

各回の課題（80%）、グループワーク（20%）を総合的に評価する。  
成績評価にはルーブリックを用いる。

授業科目名： プログラミング I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大木 有、杉浦 拓也、豊嶋 紘一
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>プログラミングの基本をpythonをもとに講義する。プログラミングの到達目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20行程度のプログラムを目的に応じて自由に書ける技術の習得。</li> <li>・ リスト型、DataFrameなど基本的な配列型に関するプログラミング技術の習得。</li> <li>・ ファイルの読み書きなどプログラミングを取り巻くコンピュータ環境の知識の習得。</li> <li>・ グラフ描画など可視化のプログラミング技術の習得。</li> <li>・ 関数、ライブラリなど外部プログラムファイルの利用方法の習得。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>Pythonを通じて、プログラムの基本的文法構造を解説し、演習により実装技術の習得を図る。また、実装にかかわる実用的な技術、例えば、プログラミング環境の導入方法、プログラム可読性の向上、デバッグ、バージョン管理などについても併せて演習を交えて講義を進める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：社会におけるプログラミング プログラミングの実用化の歴史を振り返り、AI社会でのプログラミングの役割と展望を与える。</p> <p>第2回：pythonプログラミングの基本 AI系プログラミングにおいて最も普及しているpythonをプログラミングするためのエディタ操作方法を演習を交えて講義する。</p> <p>第3回：変数と演算 数値、文字列など基本的なデータ型とその演算プログラミングの構文を講義し、演習を行う。</p> <p>第4回：配列 リスト型を例に配列の基本操作とインデックスの考え方を講義し、演習を行う。</p> <p>第5回：表形式のデータ 2次元配列のリスト型を講義し、その発展形としてDataFrame型の作成と基本操作に関するプログラミング演習を行う。</p> <p>第6回：ファイル入出力 内部メモリー、外部メモリー、CPUなどプログラムの動作環境としてのコンピュータの仕組みを説明し、外部ファイル(csv形式)をDataFrameに変換するプログラミングを演習を交えて講義する。</p>			

**第7回 : DataFrameの処理**

DataFrameのインデックス操作 (スライシング、更新、連結) について演習を交えて講義する。

**第8回 : DataFrameの処理2**

繰り返し処理, グループ化, 条件抽出, ソートなど演習を交えて講義する。

**第9回 : DataFrameからのグラフ描画**

seabornライブラリによるデータの可視化プログラミングについて演習を交えて講義する。

**第10回 : numerical python(数値演算python)**

numpy作成、ブロードキャスト、条件抽出などリスト型配列との違いを解説し演習を行う。

**第11回 : numpyとDataFrame**

DataFrameからのnumpy2次元配列の取り出し、行列演算の基本プログラミングの演習を行う。

**第12回 : 関数プログラミング1**

関数の基本構文とプログラミング演習を行う。

**第13回 : 関数プログラミング2**

外部ファイル化した関数プログラムの作成方法、実行方法に関する演習を実施する。この応用としてオープンソースリポジトリの仕組みを紹介し、そのインストール方法と実行について演習を交えて講義する。

定期試験は実施しない。

※1回あたりの授業時間は105分

テキスト

オリジナル教材にもとづく

参考書・参考資料等

「実践力を身につける Pythonの教科書 第2版」 クジラ飛行机 (著) マイナビ出版

学生に対する評価

毎回出題する演習課題に対する採点にもとづく(100%)。

授業科目名： プログラミングⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 成塚 拓真
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標 Pythonを用いて、以下ができるようになる： ・ Python独自の関数、モジュール、ライブラリ（Numpy, Pandas, Matplotlib）の使用 ・ 実データの前処理、集計、可視化			
授業の概要 本講義では、プログラミングⅠに引き続き、データの取得・加工・分析・可視化に必要なPythonのプログラミング技術を学ぶ。特に、スポーツなどの実データを用いながら、Pythonの基本ライブラリであるNumpy, Pandas, Matplotlibの使い方を学ぶ。			
授業計画 第1回：プログラミング環境の整備 第2回：Pythonの基礎文法①（リスト、条件分岐、繰り返し） 第3回：Pythonの基礎文法②（関数、クラス、モジュール・ライブラリ） 第4回：Numpy①（Numpyとは？、Numpy配列の生成） 第5回：Numpy②（Numpy配列の操作、条件付き抽出） 第6回：Numpy③（Numpy配列の演算、ファイル入出力） 第7回：Pandas①（Pandasとは？、DataFrameの生成） 第8回：Pandas②（DataFrameの参照と条件付き抽出） 第9回：Pandas③（DataFrameの演算・集計・整形、ファイル入出力） 第10回：Matplotlib①（Matplotlibの基本操作、様々なグラフの描画と装飾） 第11回：Matplotlib②（箱ひげ図、ヒストグラム、ヒートマップの描画と装飾） 第12回：Pythonによる実データの分析①（データの入出力、データの整形） 第13回：Pythonによる実データの分析②（データの集計、可視化） 定期試験は実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 授業中に独自教材を配布する			
参考書・参考資料等 Pythonによるデータ分析入門第3版（Wes McKinney著、オライリージャパン、2023）			
学生に対する評価			

4回のレポート（80%）と授業への取り組み姿勢（20%）により評価する

授業科目名： 数学教育論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高島 悟
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
中学校数学科の領域「A 数と式」及び領域「B 図形」の指導内容について、中学校及び高等学校数学科の教師として必要な知識と授業設計を行う方法の基礎を身に付ける。			
授業の概要			
主に中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編を用いて、領域「A 数と式」と領域「B 図形」の指導内容及び、これに関連する小学校算数科との関連や高等学校数学科の科目について学ぶ。また、それぞれの実践事例を分析して指導案の作成方法や数学の指導方法についても学ぶ。			
授業計画			
第1回：学習指導要領における数学科の目標と領域及び内容の構成について			
第2回：領域「A 数と式」に関連する小学校算数科の指導内容について			
第3回：中学校第1学年の領域「A 数と式」の指導内容について			
第4回：中学校第2学年の領域「A 数と式」の指導内容について			
第5回：中学校第3学年の領域「A 数と式」の指導内容について			
第6回：領域「A 数と式」における学習評価と関連する高等学校数学科の指導内容について			
第7回：領域「B 図形」に関連する小学校算数科の指導内容について			
第8回：中学校第1学年の領域「B 図形」の指導内容について			
第9回：中学校第2学年の領域「B 図形」の指導内容について			
第10回：中学校第3学年の領域「B 図形」の指導内容について			
第11回：領域「B 図形」における学習評価と関連する高等学校数学科の指導内容について			
第12回：領域「A 数と式」と領域「B 図形」の指導内容に関する実践事例について			
第13回：学習指導案（略案）の作成について			
定期試験			
※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト			
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編」（2018年3月，日本文教出版）228円，978-4536590129			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する。			

学生に対する評価

定期試験（60%）と学習指導案（略案）（40%）の内容により評価を行う。

授業科目名： 数学教育論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高島 悟
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
中学校数学科の領域「C 関数」及び領域「D データの活用」の指導内容について、中学校及び高等学校数学科の教師として必要な知識と授業設計を行う方法の基礎を身に付ける。			
授業の概要			
主に中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編を用いて、領域「C 関数」と領域「D データの活用」の指導内容及び、これに関連する小学校算数科との関連や高等学校数学科の科目について学ぶ。また、それぞれの実践事例を分析して指導案の作成方法や数学の指導方法についても学ぶ。			
授業計画			
第1回：学習指導要領における数学科の目標と領域及び内容の構成について			
第2回：領域「C 関数」に関連する小学校算数科の指導内容について			
第3回：中学校第1学年の領域「C 関数」の指導内容について			
第4回：中学校第2学年の領域「C 関数」の指導内容について			
第5回：中学校第3学年の領域「C 関数」の指導内容について			
第6回：領域「C 関数」における学習評価と関連する高等学校数学科の指導内容について			
第7回：領域「D データの活用」に関連する小学校算数科の指導内容について			
第8回：中学校第1学年の領域「D データの活用」の指導内容について			
第9回：中学校第2学年の領域「D データの活用」の指導内容について			
第10回：中学校第3学年の領域「D データの活用」の指導内容について			
第11回：領域「D データの活用」における学習評価と関連する高等学校数学科の指導内容について			
第12回：領域「C 関数」と領域「D データの活用」の指導内容に関する実践事例について			
第13回：学習指導案（略案）の作成について			
定期試験			
※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト			
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編」（2018年3月，日本文教出版），978-4536590129			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する。			

学生に対する評価

定期試験（60%）と学習指導案（略案）（40%）の内容により評価を行う。

授業科目名: 数学教育論Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 高島 悟
			担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 学習指導案の作成や模擬授業の実践を通して、中学校及び高等学校の教師として必要な知識と授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要 平成29年の学習指導要領改訂で、各教科における観点別学習状況の評価の観点、「3観点に整理された。以上を踏まえ、数学科における各観点の評価事例を学び、単元を通じた指導計画を作成すると共に、模擬授業等を通じて授業設計と実践に取り組む。			
授業計画 第1回:数学科における「観点別学習状況の評価」の基本的な考え方について 第2回:数学科における「知識・技能」の評価方法について 第3回:数学科における「思考・判断・表現」の評価方法について 第4回:数学科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法について 第5回:観点別学習状況の評価を組み込んだ学習指導案の作成について 第6回:領域「A 数と式」と領域「B 図形」の指導内容に関する実践事例と学習指導案の作成について 第7回:領域「A 数と式」に関する模擬授業の実践について 第8回:領域「B 図形」に関する模擬授業の実践について 第9回:領域「A 数と式」と「B 図形」に関する模擬授業の振り返りについて 第10回:領域「C 関数」と領域「D データの活用」の指導内容に関する実践事例と学習指導案の作成について 第11回:領域「C 関数」に関する模擬授業の実践について 第12回:領域「D データの活用」に関する模擬授業の実践について 第13回:領域「C 関数」と領域「D データの活用」に関する模擬授業の振り返りについて 定期試験:なし ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編」(2019年4月学校図書), 978-4762505355 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(2020年6月, 東洋館出版), 978-4491041346			

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

作成した学習指導案(30%)、模擬授業への参加(30%)、振り返りの内容(40%)等をもとに総合的に評価します。

授業科目名： 数学教育論Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高島 悟
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 義務教育段階における数学科の指導の成果と課題を理解し、数学科の指導にかかわる重要事項を含めた授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要 全国学力・学習状況調査の結果を分析することで、生徒の学習状況に関する成果と課題を明らかにすると共に、数学科の指導にかかわる重要事項について学び、学習指導案の作成や模擬授業等を通じて数学の発展的な指導法についても学ぶ。			
授業計画 第1回：令和6～8年度全国学力調査「A 数と式」と「B 図形」領域の問題と調査結果の分析について 第2回：「A 数と式」と「B 図形」領域の課題整理と解決に向けた授業の学習指導案作成について 第3回：「A 数と式」と「B 図形」領域の課題解決に向けた模擬授業の実践とその振り返りについて 第4回：令和6～8年度全国学力調査「C 関数」と「D データの活用」領域の問題と調査結果の分析について 第5回：「C 関数」と「D データの活用」領域の課題整理と解決に向けた授業の学習指導案作成について 第6回：「C 関数」と「D データの活用」領域の課題解決に向けた模擬授業の実践とその振り返りについて 第7回：数学科における「主体的・対話的で深い学び」とその実現のための指導について 第8回：境界知能にある子どもへのUD等を活用した数学科における学習支援方法について 第9回：数学科における「探求的な学び」①課題提示の工夫について 第10回：数学科における「探求的な学び」②カリキュラム・マネジメントについて 第11回：数学科における「探求的な学び」③ICT機器の有効な活用について 第12回：数学科における「探求的な学び」④模擬授業の実践について 第13回：数学科における「探求的な学び」⑤模擬授業の振り返りについて 定期試験 ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編」(2019年4月学校図書), 978-4762505355			

全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 数学（過去3年分）

全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校 数学（過去3年分）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

作成した学習指導案（30%）、模擬授業への参加（30%）、振り返りの内容（40%）等をもとに総合的に評価します。

授業科目名： 教職演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鹿嶋（佐藤） 真弓
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業は、教職を目指す受講生にむけて、到達目標に向けた一連のプロセスを経験する場を与えることをテーマとする。</p> <p>①教職にかかわる各自の問題意識を掘り下げる、②関心の近い者と検討課題を設定し、協働して調査・分析をおこなう、③成果を報告し共有できることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>グループ調査研究・報告・討論を通じ到達目標に向け授業を進める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育実習に向けた問題意識（教師としての資質・能力）</p> <p>第2回：検討課題の設定・調査（教師としての資質・能力）</p> <p>第3回：検討課題の分析（教師としての資質・能力）</p> <p>第4回：成果報告会（教師としての資質・能力）</p> <p>第5回：教育実習に向けた問題意識（学級経営）</p> <p>第6回：検討課題の設定・調査（学級経営）</p> <p>第7回：検討課題の分析（学級経営）</p> <p>第8回：成果報告会（学級経営）</p> <p>第9回：教育実習経験者の自己課題と現在の自分の自己課題</p> <p>第10回：教育実習に向けた問題意識（授業）</p> <p>第11回：検討課題の設定・調査（授業）</p> <p>第12回：検討課題の分析（授業）</p> <p>第13回：成果報告会（授業）</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時に適宜配付する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>問いを創る授業（鹿嶋真弓・石黒康夫著、図書文化）</p> <p>子どもの言葉で問いを創る授業（鹿嶋真弓・石黒康夫・吉本恭子著、学事出版）</p>			

学生に対する評価

調査研究および成果報告会への参加（50％）、模擬授業の実施と指導案作成（50％）

授業科目名： 教職演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大島 英樹
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業は、教職を目指す受講生にむけて、到達目標に向けた一連のプロセスを経験する場を与えることをテーマとする。</p> <p>①教職にかかわる各自の問題意識を掘り下げる、②関心の近い者と検討課題を設定し、協働して調査・分析をおこなう、③成果を報告し共有できることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>グループ調査研究・報告・討論を通じ到達目標に向け授業を進める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：個人の問題意識の発表</p> <p>第2回：先行研究事例の紹介</p> <p>第3回：テーマにもとづくグループ編成</p> <p>第4回：グループ調査研究① 調査設計</p> <p>第5回：グループ調査研究② 調査の実施</p> <p>第6回：中間報告</p> <p>第7回：コメントの検討</p> <p>第8回：グループ調査研究③ 分析・追加調査</p> <p>第9回：グループ調査研究④ 分析・討議</p> <p>第10回：グループ調査研究⑤ 発表準備</p> <p>第11回：最終報告</p> <p>第12回：総括討論</p> <p>第13回：相互評価および自己評価</p> <p>定期試験は実施しない。</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時に適宜配付する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>名古屋隆彦『質問する、問い返す』（岩波ジュニア新書）2017</p> <p>その他授業中に適宜資料を配付する。</p>			

学生に対する評価

中間報告（40%）、最終報告（40%）、授業への取り組み姿勢（20%）

授業科目名： 教職演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 洋行
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業は、教職を目指す受講生にむけて、到達目標に向けた一連のプロセスを経験する場を与えることをテーマとする。</p> <p>①教職にかかわる各自の問題意識を掘り下げる、②関心の近い者と検討課題を設定し、協働して調査・分析をおこなう、③成果を報告し共有できることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>グループ調査研究・報告・討論を通じ到達目標に向け授業を進める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：実習に臨むにあたっての課題の共有①（教えることの実践方法について）</p> <p>第2回：実習に臨むにあたっての課題の共有②（実践と計画との繋がり）</p> <p>第3回：授業づくりに必要な知識と準備①（教材研究の意味）</p> <p>第4回：授業づくりに必要な知識と準備②（対人関係能力）</p> <p>第5回：授業計画とその方法①（ディスカッションと発表①）</p> <p>第6回：授業計画とその方法②（発表②とまとめ）</p> <p>第7回：前半のまとめと課題設定</p> <p>第8回：教師にとって必要な知識と対人コミュニケーション①（対教師）</p> <p>第9回：教師にとって必要な知識と対人コミュニケーション②（対生徒）</p> <p>第10回：実践を通じた課題設定</p> <p>第11回：実践を通じた課題に対する振り返り</p> <p>第12回：実践を通じた授業に対する意識作り</p> <p>第13回：まとめと課題の検討</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト：中学校学習指導要領（平成29年3月公示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月公示 文部科学省）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜提示する</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

演習への取り組み30%、課題・レポート50%、プレゼンテーション20%で評価する。

授業科目名： 教職演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡田 愛
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業は、教職を目指す受講生にむけて、到達目標に向けた一連のプロセスを経験する場を与えることをテーマとする。</p> <p>①教職にかかわる各自の問題意識を掘り下げる、②関心の近い者と検討課題を設定し、協働して調査・分析をおこなう、③成果を報告し共有できることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>グループ調査研究・報告・討論を通じ到達目標に向け授業を進める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 はじめに 授業観察のポイント</p> <p>第2回 模擬授業とその検討①中学社会(地理的分野)</p> <p>第3回 模擬授業とその検討②中学社会 (歴史的分野)</p> <p>第4回 模擬授業とその検討③高校地理</p> <p>第5回 模擬授業とその検討④高校歴史</p> <p>第6回 模擬授業とその検討⑤中学社会 (公民分野) ・高校公民</p> <p>第7回 授業実践を振り返る (中間まとめ)</p> <p>第8回 模擬授業とその検討⑥国語 (現代文)</p> <p>第9回 模擬授業とその検討⑦国語 (古文・漢文)</p> <p>第10回 模擬授業とその検討⑧中学英語</p> <p>第11回 模擬授業とその検討⑨高校英語</p> <p>第12回 授業実践を振り返る (期末まとめ)</p> <p>第13回 教育実習に向けた各自の課題整理</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校学習指導要領 (平成29年3月告示) 、高等学校学習指導要領 (平成30年3月告示)</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

授業への取り組み姿勢(模擬授業・検討会への参加)(50%)、模擬授業実施と指導案作成(50%)

授業科目名： 教職演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村上 達也
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業は、教職を目指す受講生にむけて、到達目標に向けた一連のプロセスを経験する場を与えることをテーマとする。</p> <p>①教職にかかわる各自の問題意識を掘り下げる、②関心の近い者と検討課題を設定し、協働して調査・分析をおこなう、③成果を報告し共有できることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>グループ調査研究・報告・討論を通じ到達目標に向け授業を進める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：教職の意義</p> <p>第2回：教育に関する課題の検討と個々の問題意識の明確化</p> <p>第3回：グループ編成と先行研究事例の紹介</p> <p>第4回：調査の方法論と研究倫理</p> <p>第5回：データ分析の仕方</p> <p>第6回：グループ調査研究 ① 調査の設計</p> <p>第7回：グループ調査研究 ② 調査の実施</p> <p>第8回：グループ調査研究 ③ データの整理</p> <p>第9回：グループ調査研究 ③ データの分析</p> <p>第10回：グループ調査研究 ④ 分析結果を基にした討議</p> <p>第11回：グループ調査研究 ⑤ 発表準備</p> <p>第12回：グループ調査研究 ⑥ 全体での報告会</p> <p>第13回：まとめ 相互評価および自己評価</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）</li> <li>・ 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）</li> <li>・ 【取得予定科目に関する】 中学校／高等学校学習指導要領解説</li> <li>・ 生徒指導提要（改訂版）（令和4年12月 文部科学省）</li> </ul>			

参考書・参考資料等

- ・小塩真司・宅香奈子（2015）心理学の卒業研究ワークブック 金子書房
- ・豊田秀樹（編著）（2015）紙を使わないアンケート調査入門 東京図書
- ・石川美智子・松本みゆき（2018）教育を科学する力、教師のための量的・質的研究方法  
学術研究出版
- ・荘島宏二郎（編著）（2017）計量パーソナリティ心理学 ナカニシヤ出版

学生に対する評価

- ・授業への取り組み姿勢およびグループ活動への参加（50%）、課題レポート等（50%）により総合的に評価する。

授業科目名： 教職演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：村上 美奈子 担当形態： クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 この授業は、教職を目指す受講生にむけて、到達目標に向けた一連のプロセスを経験する場を与えることをテーマとする。 ①教職にかかわる各自の問題意識を掘り下げる、②関心の近い者と検討課題を設定し、協働して調査・分析をおこなう、③成果を報告し共有できることを到達目標とする。			
授業の概要 グループ調査研究・報告・討論を通じ到達目標に向け授業を進める。			
授業計画 【第1回】オリエンテーション、報告発表のグループ分け及びグループワーク 【第2回】タブレット、電子黒板を活用した授業の展開について 【第3回】模擬授業（中学または高校の地理）（中学または高校の公民） 【第4回】模擬授業（特別支援教育）（高校情報科） 【第5回】教材研究と教育方法の吟味 【第6回】教育や教師のあり方について（グループ討論） 【第7回】教育や教師のあり方について（グループ発表） 【第8回】震災や広島・長崎の原爆を伝える絵本 【第9回】絵本を手がかりに伝え方を吟味する 【第10回】防災・減災のための備えについて 【第11回】防災・減災を考えるワークショップ 【第12回】プレゼンテーションⅠ（前半） 【第13回】プレゼンテーションⅡ（後半） 定期試験は実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 授業中に適宜配付する。			
参考書・参考資料等 学習指導要領および解説			
学生に対する評価 授業への取り組み姿勢（30%）、授業内課題（40%）、課題レポート等（30%）によって総合			

的に評価する。

授業科目名： 道徳教育の理論と実践	教員の免許状取得のための 必須科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 石本 祐二 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育指導等に関する科目（中学校） 大学が独自に設定する科目（高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法（中学校）		
授業のテーマ及び到達目標 現代日本における道徳教育の必要性について本質、基本理念、歴史などの面から理論的・実践的な考察を加える。教科書に記された内容を、道徳教育と現実を結びつけて把握できるようにすること。			
授業の概要 道徳教育関連の新聞記事をもとにして、毎回、感想・疑問・意見を記述する。 授業回に関わる内容を事前に予習し、その成果を予習レポートとして提出する。 道徳教育に関わる意見発表、各回の設定テーマを深めるグループワーク等を通じ、学生参加の授業展開を実現する。			
授業計画 第1回：道徳とは何か 第2回：学習指導要領における道徳教育の目標・本質 第3回：道徳教育の歴史及び教育活動全体に占める位置 第4回：学習指導要領における道徳科の目標・授業設計 第5回：道徳の本質と現代社会における課題 第6回：道徳授業指導の必要性和狙い 第7回：子どもの道徳性の発達と多様な指導方法 第8回：現代社会における道徳的諸課題を踏まえた学習評価 第9回：「いじめ」問題と道徳授業設計 第10回：いじめ・情報モラルと道徳科の学習指導案 第11回：道徳における現代的諸課題を考察する模擬授業 第12回：道徳性の発達を踏まえた指導過程 第13回：道徳の本質を踏まえた学習評価 定期試験 ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 『史料 道徳教育を考える[四改訂版]』 『中学校学習指導要領』			

参考書・参考資料等

『ハンディ教育六法 2025年版』

学生に対する評価

授業への関わり50%、課題レポート2回30%、期末試験20%で評価

授業科目名： 法学入門〔日本国憲法を含む〕	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口哲史 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業のテーマは、日本国憲法の基礎を習得することである。到達目標は、日本国憲法の基本的人権及び統治の仕組みと基本原則を理解して、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得することにある。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>主に法学の初学者、入門者、教職を目指す学生を対象に、日本国憲法の基礎に関する講義を行う。内容は、主に日本国憲法における統治（国会・内閣・裁判所）と基本的人権である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入</p> <p>第2回：憲法とは何か、憲法の歴史、立憲主義</p> <p>第3回：国会</p> <p>第4回：内閣</p> <p>第5回：裁判所と違憲審査権</p> <p>第6回：基本的人権総論</p> <p>第7回：幸福追求権（包括的基本権）</p> <p>第8回：法の下での平等</p> <p>第9回：精神的自由権（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離）</p> <p>第10回：精神的自由権（表現の自由）</p> <p>第11回：経済的自由権、人身の自由および刑事手続上の権利</p> <p>第12回：参政権・国務請求権・社会権</p> <p>第13回：象徴天皇制・平和主義</p> <p>定期試験</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>毛利透『グラフィック 憲法入門 第3版』（新世社、2024）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験：100%</p>			

授業科目名： 法律学概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口 哲史
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 この授業のテーマは、法律学の基礎としての日本国憲法を習得することである。到達目標は、日本国憲法の基本的人権及び統治の仕組みと基本原則を理解して、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得することにある。			
授業の概要 主に法学の初学者、入門者、教職を目指す学生を対象に、日本国憲法の基礎に関する講義を行う。内容は、日本国憲法全体（統治（国会・内閣・裁判所）と基本的人権）に及ぶ。			
授業計画 第1回：導入 第2回：憲法とは何か、憲法の歴史、立憲主義 第3回：国会 第4回：内閣 第5回：裁判所と違憲審査権 第6回：基本的人権総論 第7回：幸福追求権（包括的基本権） 第8回：法の下での平等 第9回：精神的自由権（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離） 第10回：精神的自由権（表現の自由） 第11回：経済的自由権、人身の自由および刑事手続上の権利 第12回：参政権・国務請求権・社会権 第13回：象徴天皇制・平和主義 定期試験 ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 授業中に適宜配付する。			
参考書・参考資料等 毛利透『グラフィック 憲法入門 第2版』（新世社、2021）			
学生に対する評価			

定期試験：100%

授業科目名： スポーツ科学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永田 聡典
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目の目的は、大学生活ひいては生涯にわたってスポーツを実践し、心身ともに健やかにするためのライフスキルを習得するための教養を深めることにある。</p> <p>到達目標は現代社会における健康問題や、日常生活を健やかに送るための運動・スポーツに関する科学的知見や、論理的思考を身につける。また、溢れる多様な健康やスポーツの情報に対するリテラシーを身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、スポーツ科学の基礎知識を学び、健康づくり、組織づくり、キャリア形成を科学的に探求することを目的としています。スポーツパフォーマンス分析やトレーニング方法について科学的な視点を養い、健康増進や身体機能向上に関する科学的知見を実生活やスポーツ活動に応用する方法を学びます。また、スポーツチームにおける組織形成や個々のキャリア向上を支援するためのアプローチについても考察します。授業ではグループワークやリフレクションを取り入れ、学生主体の学びを通じて、理論と実践を結びつけることを狙いとします。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 授業の目的、進め方、評価方法の説明。</p> <p>第2回：スポーツ科学の基礎①：身体の仕組みと健康</p> <p>第3回：スポーツ科学の基礎②：運動生理学とパフォーマンス</p> <p>第4回：発育発達と身体特性</p> <p>第5回：健康づくりと栄養学</p> <p>第6回：健康づくりのための運動と情報リテラシー</p> <p>第7回：目標設定と組織づくり</p> <p>第8回：スポーツとキャリア形成</p> <p>第9回：スポーツコーチング</p> <p>第10回：運動学習に基づく指導方法</p> <p>第11回：スポーツ科学活用最前線</p> <p>第12回：トータルコンディショニング</p> <p>第13回：まとめと振り返り</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			

テキスト

授業中に適宜配付する

参考書・参考資料等

授業中に適宜提示する

学生に対する評価

**授業参加姿勢**：30%（ディスカッションやグループワークへの積極的な参加）

**課題提出**：40%（記録提出、リフレクション）

**期末レポート**：30%（授業内容の理解と応用力を測る）

授業科目名： スポーツ実践 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永田 聡典、西谷 善子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>安全・危機管理とルール理解</p> <p>スポーツ活動における安全管理や危機管理について認識し、種目のルールや成り立ちを理解した上で、安心・安全に活動を実践できる。</p> <p>技能習得と協働的实践</p> <p>各種目の特性を把握し、実践的な技能を習得するとともに、他者と試行錯誤しながら円滑なコミュニケーションを図り、プレーやルール作りを楽しむことができる。</p> <p>運動習慣と生涯スポーツの実践</p> <p>運動習慣を身につけるきっかけとし、健康づくりや生涯スポーツの習得を通じて、豊かな時間を創出する力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>複数の屋内外スポーツ種目から相互に学び合うことによって豊かな社会性、包括的な運動・メンタルスキルを身につける。また複数の屋内スポーツ種目の実践を通して、他者とのコミュニケーションによる意思決定や課題解決の方法についても考察する力を素養する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：授業の目的、進め方、評価方法の説明</p> <p>第2回：リーダーシップ・フォロワーシップ導入：基礎レクチャーとアクティビティ</p> <p>第3回：チームスポーツ実践①（アルティメットなど）：基本ルールとチームビルディング</p> <p>第4回：チームスポーツ実践②（アルティメットなど）：試合形式とチーム内での役割理解</p> <p>第5回：チームスポーツ実践③（ミニサッカーなど）：基本技術とチームワーク</p> <p>第6回：チームスポーツ実践④（ミニサッカーなど）：戦術実践</p> <p>第7回：チームスポーツ実践⑤：リーダーシップとフォロワーシップの振り返り</p> <p>第8回：チームビルディングゲームとグループ討論（モルックやボッチャなど）</p> <p>第9回：チームスポーツ実践⑥（タグラグビーなど）：基本技術とチームワーク</p> <p>第10回：チームスポーツ実践⑦（タグラグビーなど）：戦術実践</p> <p>第11回：オリジナルスポーツ創作①：グループでルールや企画を考案</p> <p>第12回：オリジナルスポーツ創作②：発表と実践、他グループと交流</p> <p>第13回：まとめと振り返り：全体の学びの総括と自己評価</p>			

定期試験は実施しない

※1回あたりの授業時間は105分

テキスト

授業時に適宜配付する

参考書・参考資料等

授業時に適宜提示する

学生に対する評価

授業への取り組み姿勢（60%），課題レポート（20%），グループプレゼンテーション（20%）にて評価する。

授業科目名： スポーツ実践2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永田 聡典、西谷 善子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>安全・危機管理とルール理解</p> <p>スポーツ活動における安全管理や危機管理について認識し、種目のルールや成り立ちを理解した上で、安心・安全に活動を実践できる。</p> <p>技能習得と協働的实践</p> <p>各種目の特性を把握し、実践的な技能を習得するとともに、他者と試行錯誤しながら円滑なコミュニケーションを図り、プレーやルール作りを楽しむことができる。</p> <p>運動習慣と生涯スポーツの実践</p> <p>運動習慣を身につけるきっかけとし、健康づくりや生涯スポーツの習得を通じて、豊かな時間を創出する力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>複数の屋内外スポーツ種目から相互に学び合うことによって豊かな社会性、包括的な運動・メンタルスキルを身につける。また複数の屋内スポーツ種目の実践を通して、他者とのコミュニケーションによる意思決定や課題解決の方法についても考察する力を素養する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：授業の目的、進め方、評価方法の説明</p> <p>第2回：セルフケア実践：セルフケアの基礎知識、ストレッチ、柔軟性トレーニング</p> <p>第3回：チームビルディングアクティビティ</p> <p>第4回：インドアスポーツ①（バレーボール）：基本技術とミニゲーム</p> <p>第5回：インドアスポーツ②（バレーボール）：試合形式における役割理解</p> <p>第6回：レクリエーションスポーツ①：ウェルチエアバスケットボール</p> <p>第7回：レクリエーションスポーツ②：ウェルチエアバスケットボールや3X3など</p> <p>第8回：レクリエーションスポーツ③：キンボールなど</p> <p>第9回：レクリエーションスポーツ④：ボッチャなど</p> <p>第10回：インドアスポーツ③ バドミントン：基本ルールとシングルスゲーム</p> <p>第11回：インドアスポーツ④ Pickleball：基本技術とミニゲーム</p> <p>第12回：インドアスポーツ⑤ Pickleball：試合形式でにおける役割理解</p> <p>第13回：まとめと振り返り：全体の学びの総括と自己評価</p>			

定期試験は実施しない

※1回あたりの授業時間は105分

テキスト

授業時に適宜配付する

参考書・参考資料等

授業時に適宜提示する

学生に対する評価

授業への取り組み姿勢（60%），課題レポート（20%），グループプレゼンテーション（20%）にて評価する。

授業科目名： 基礎英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 亀井ダイチ 利永子、清水 徹郎、野村 恵理子、森川 慶子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業は、基礎的な英語力およびコミュニケーション能力を向上させることを目的としている。</p> <p>次の3点を到達目標とする。</p> <p>①英語文法に関する基本知識、および語彙を習得する。</p> <p>②基本的な英語文を読むことができる。</p> <p>③日常に用いられる容易な英語文を理解し、使えるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>文法・語法演習をはじめ、語彙・熟語増強、正確なスペリングの確認、ディクテーション、リーディング等を通して、基礎力の強化を図る。また発音の向上やイントネーションなどの音読練習を行い、実践的なコミュニケーションスキルの発達につなげていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>【第1回】オリエンテーション、UNIT1 Occupations (接続詞他) -1</p> <p>【第2回】UNIT1 Occupations (接続詞他) -2</p> <p>【第3回】UNIT 2 At the Dinner Table (助動詞) -1</p> <p>【第4回】UNIT 2 At the Dinner Table (助動詞) -2</p> <p>【第5回】UNIT 3 Sports (頻度を表す副詞他) -1</p> <p>【第6回】UNIT 3 Sports (頻度を表す副詞他) -2</p> <p>【第7回】UNIT4 Health (不定詞、助動詞) -1</p> <p>【第8回】UNIT4 Health (不定詞、助動詞) -2</p> <p>【第9回】 UNIT 5 What's on Your Playlist? (相関接続詞) -1</p> <p>【第10回】UNIT 5 What's on Your Playlist? (相関接続詞) -2</p> <p>【第11回】UNIT6 At the Movies (知覚動詞、再帰代名詞) -1</p> <p>【第12回】UNIT6 At the Movies (知覚動詞、再帰代名詞) -2</p> <p>【第13回】Review -1 (Unit1-Unit6)</p> <p>【第14回】UNIT 7 Technology in Daily Life (接続副詞他) -1</p>			

- 【第15回】UNIT 7 Technology in Daily Life (接続副詞他) -2  
【第16回】UNIT8 Social Network (名詞節) -1  
【第17回】UNIT8 Social Network (名詞節) -2  
【第18回】UNIT9 Looking on the Bright Side (連結動詞) -1  
【第19回】UNIT9 Looking on the Bright Side (連結動詞) -2  
【第20回】UNIT10 Love Affairs (関係代名詞) -1  
【第21回】UNIT10 Love Affairs (関係代名詞) -2  
【第22回】UNIT11 Storytelling (関係代名詞：制限・非制限用法) -1  
【第23回】UNIT11 Storytelling (関係代名詞：制限・非制限用法) -2  
【第24回】UNIT12 The Power of Words (従属接続詞他) -1  
【第25回】UNIT12 The Power of Words (従属接続詞他) -2  
【第26回】Review -2 (Unit 7-Unit 12)

定期試験は実施しない

※1回あたりの授業時間は105分

テキスト

Live Escalate 2: Trekking (成美堂)

参考書・参考資料等

総合英語Evergreen (いっぴな書店)

学生に対する評価

小テスト 20%、中間テスト25%、期末テスト30%、授業への取り組み(課題含む) 25%で評価する

授業科目名： 情報処理の基礎 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大木 有、杉浦 拓也、豊嶋 紘一
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>社会で必要とされる基礎的な情報リテラシーを身につける。</p> <p>1) TypeQuickソフトを指定期日までに365点以上で修了</p> <p>2) LMS内の各必須eラーニング学修コンテンツを基準点以上で合格すること</p>			
授業の概要			
<p>AIが急速に発展・普及する社会を生きるために必要な情報リテラシーの基礎的部分をLMSを補助的に利用しながら学修する。本授業は、ただ1回の欠席でパソコン上の操作がわからなくなり、授業についてゆけなくなる可能性があるので注意を要する。</p>			
授業計画			
<p>【第1回】貸与PCのセットアップと基本的なルール（コンピュータ教室利用上の諸規定）の理解</p> <p>【第2回】学習ツール（Teams、OpenLMS、Outlook、OneDrive、Webブラウザなど）の利用方法</p> <p>【第3回】情報倫理／情報セキュリティ／プライバシー／ソーシャルメディアの活用と情報文化の視点について</p> <p>【第4回】情報倫理eラーニングの利用方法、TypeQuick（日本語入力とローマ字）の学習方法について</p> <p>【第5回】コンピュータ／パソコン／ネットワーク／OSの歴史と概観</p> <p>【第6回】ハードウェア、ソフトウェアの概要について、HTML、Javascript、FTP</p> <p>【第7回】文書作成ソフト1（横書き公文書及びビジネス文書のルール）</p> <p>【第8回】文書作成ソフト2（レポートの書き方）</p> <p>【第9回】表計算ソフト1（表の作成）</p> <p>【第10回】表計算ソフト2（グラフの作成）</p> <p>【第11回】プレゼンテーションソフト1（プレゼンテーションの基本）</p> <p>【第12回】プレゼンテーションソフト2（プレゼンテーション実践）</p> <p>【第13回】Society5.0での情報リテラシーとデジタルトランスフォーメーションについて</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			

テキスト

授業時に適宜配付する

参考書・参考資料等

【改訂第3版】基礎からわかる情報リテラシー 奥村一森本 技術評論社

学生に対する評価

各回の課題（80%）、受講姿勢（20%）を総合的に評価する。

成績評価にはルーブリックを用いる。

授業科目名： 教育学の基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 洋行
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
到達目標は次の項目についての修得と理解である。			
①教育の基本概念、②日本及び西洋における教育の歴史と思想、③教育の理念・目的と学校教育の関わり、④教育改革の動向と学校教育の変遷			
授業の概要			
本授業では、教育の基本概念、教育の理念・目的、教育の歴史と思想、学校教育など教育学に関する基礎基本と近年の教育改革を取り上げる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：教えて育てることとは			
第2回：IT化と教育について			
第3回：教育行政・制度について			
第4回：学校制度・経営について			
第5回：教育の歴史と理念[欧米]について			
第6回：教育の歴史と理念[日本]について			
第7回：家庭教育と社会教育について			
第8回：教育の思想[欧米]について			
第9回：教育の思想[日本]について			
第10回：子どもの発達とその支援について①幼児期から児童期			
第11回：子どもの発達とその支援について②児童期から青年期			
第12回：学校教育における学びについて			
第13回：まとめと課題の振り返り			
定期試験は行わない			
※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト			
『シリーズ・やさしく学ぶ教育課程 教育原理』（学文社）			
参考書・参考資料等			
適宜、提示する			
学生に対する評価：授業毎に提出する小レポート14回×5点＝70%、期末レポート30%の合計10			

0%で評価

授業科目名： 教育学の基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田口 賢太郎
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 到達目標は次の項目についての修得と理解である。 ①教育の基本概念、②日本及び西洋における教育の歴史と思想、③教育の理念・目的と学校教育の関わり、④教育改革の動向と学校教育の変遷			
授業の概要 本授業では、教育の基本概念、教育の理念・目的、教育の歴史と思想、学校教育など教育学に関する基礎基本と近年の教育改革を取り上げる。			
授業計画 第1回：授業の概要と授業計画、評価方法の説明、教育学の基礎の導入 第2回：学校と社会—公教育制度の理念と仕組み 第3回：子どもと社会—子どもの誕生と近代家族 第4回：学力と教育—資質・能力と幼児教育の意義 第5回：階層と教育—学歴社会 第6回：教育の「学ぶ」と「教える」 第7回：教育を通じた人間の「育ち」—人格形成論 第8回：計画的な教育—カリキュラム、学習指導要領 第9回：教育を支える環境—ICTの利活用 第10回：「愛」と「死」と教育 第11回：教育と福祉 第12回：学校と安全 第13回：総括 未来に臨む現代の教育 定期試験は実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 古賀毅編著『教育原理（やさしく学ぶ教職課程）』学文社、2020年			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』			

#### 学生に対する評価

出席および授業内での積極的な取り組みを前提とし、各授業回で課す小課題（60%）、学期末レポート（40%）の内容と合わせて評価する。

授業科目名： 教育史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 江津 和也
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。			
授業の概要 日本の近代から現代までの教育の流れを中心に、欧米の教育動向にも目を向けながら歴史的にたどる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 教育の歴史を学ぶ意義 第2回：近代以前のわが国の教育 第3回：近代教育制度の成立と展開（1） 学制、教育令とその背景 第4回：近代教育制度の成立と展開（2） 学校令とその背景 第5回：天皇制教育制度の確立と展開（1） 教育勅語とその背景 第6回：天皇制教育制度の確立と展開（2） 小学校関連の法整備 第7回：天皇制教育制度の確立と展開（3） 中等教育・高等教育の拡充 第8回：大正デモクラシー期における教育改革（1） 高等教育の改革を中心に 第9回：大正デモクラシー期における教育改革（1） 大正自由教育運動の展開 第10回：戦時体制下の学校教育 第11回：戦後の教育改革とその展開 第12回：高度経済成長期とその後の教育 第13回：平成期の教育、まとめ 定期試験は実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 片桐芳雄・木村元編『教育から見る日本の社会と歴史 第2版』（八千代出版、2017年）			
参考書・参考資料等 授業内で適宜指示する。			
学生に対する評価 期末レポートの内容（80%）及び授業への取り組み姿勢により総合的に評価する。			

授業科目名： 教育史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 雨宮 和輝
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。			
授業の概要 日本の近代から現代までの教育の流れを中心に、欧米の教育動向にも目を向けながら歴史的にたどる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：近代以前の教育の変遷について 第2回：明治時代の教育（1）：近代学校教育制度の誕生と実施（1872年～1890年頃） 第3回：明治時代の教育（2）：近代教育体制の整備と展開（1891年～1910年頃） 第4回：大正時代の教育（1）：学校教育制度の更改と発展（1911年～1920年頃） 第5回：大正時代の教育（2）：デモクラシーと大正新教育運動（1921年～1930年頃） 第6回：昭和戦前期の教育（1）：戦時下における教育（1931年～1940年頃） 第7回：昭和戦前期の教育（2）：総力戦体制下の教育（1940年～1945年頃） 第8回：昭和戦後期の教育（1）：戦後教育の始まり（1945年～1950年頃） 第9回：昭和戦後期の教育（2）：戦後新教育の整備と展開（1950年～1960年頃） 第10回：1960年代～1970年代：高度経済成長の開始と教育の拡大 第11回：1980年代～1990年代：高度経済成長後における教育問題への対処 第12回：2000年代～現代：現在に至るまでの教育問題とその対応 第13回：まとめ：テスト 定期試験 ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 安彦忠彦/藤井千春/田中博之編著『新版 よくわかる教育学原論』2020年5月			
参考書・参考資料等 片桐芳雄・木村元編著「『教育から見る日本の社会と歴史（第二版）』2017年3月			
学生に対する評価 定期試験（60％）、毎回の授業後のコメントシート提出（30％）、授業への取組姿勢（10％）			

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青木 研作
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 到達目標は、次の項目を理解することである。 ①教職の意義と在り方、②教員の役割と求められる資質能力、③教員の職務内容・義務と教員研修の必要性、④教職員の連携・チーム学校の必要性			
授業の概要 近代日本の教員養成の歴史とその特質を講じるとともに、教師の地位と役割ならびに資質向上の在り方について講じる。			
授業計画 第1回：Introduction—講義のねらいと概要— 第2回：子ども・若者の育ちの状況と教師 第3回：近・現代の教育思想と教師 第4回：公教育制度の理念・改革と教師 第5回：教職の社会的意義 第6回：教職観の変遷と教員に求められる役割・資質能力 第7回：教員の職務内容と職務上・身分上の義務 第8回：園学校・家庭・地域の連携・協働と教師（チーム学校運営への対応を含む） 第9回：教育課程の意義・編成方法と教師 第10回：教職の実態（1）—インタビュー調査結果の発表— 第11回：教職の実態（2）—グループワークによる探究— 第12回：諸外国における教育と教職をめぐる動向 第13回：授業の総括（まとめのテスト含む） 定期試験は実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 『教育と教職のフロンティア』（伊藤良高・岡田愛・荒井英治郎編、晃洋書房）			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）			

学生に対する評価

授業への取り組み姿勢 (50%)、レポート (25%)、まとめのテスト (25%)

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小椋 孝 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>到達目標は、次の項目を理解することである。</p> <p>①教職の意義と在り方、②教員の役割と求められる資質能力、③教員の職務内容・義務と教員研修の必要性、④教職員の連携・チーム学校の必要性</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教職の在り方・役割、教員の採用・育成研修、教育改革及び教育政策、今日的な教育課題等について講じる。あわせて、教師の地位と役割ならびに資質向上の在り方について講じる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、教員に求められる資質・能力と職務の内容</p> <p>第2回：教育に関する法令、教員の身分と服務、教員採用と研修制度</p> <p>第3回：これまでの教育制度と学習指導要領の変遷</p> <p>第4回：現行学習指導要領の内容と教育課程の編成（チーム学校運営への対応を含む）</p> <p>第5回：これからの教育が目指す具体的な方向性（チーム学校運営への対応を含む）</p> <p>第6回：学習指導と学習評価</p> <p>第7回：道徳教育、総合的な学習の時間</p> <p>第8回：特別活動、部活動</p> <p>第9回：教育課題への対応①（生徒指導上の問題行動等）（チーム学校運営への対応を含む）</p> <p>第10回：教育課題への対応②（特別支援教育、配慮を要する児童生徒への対応等）（チーム学校運営への対応を含む）</p> <p>第11回：教育課題への対応③（虐待問題、貧困対策、ヤングケアラー、保護者対応等）（チーム学校運営への対応を含む）</p> <p>第12回：教育課題への対応④（教員の働き方改革等）</p> <p>第13回：教員の資質向上、振りかえりと総括</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領及び解説（総則及び必要な教科・領域等）</p> <p>高等学校学習指導要領及び解説（総則及び必要な教科・領域等）</p>			

参考書・参考資料等

授業中に適宜配布する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）、授業への取組姿勢（10%）

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白川 優治
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
到達目標は、次の項目を理解することである。			
①教職の意義と在り方、②教員の役割と求められる資質能力、③教員の職務内容・義務と教員研修の必要性、④教職員の連携・チーム学校の必要性			
授業の概要			
近代日本の教員養成の歴史とその特質を講じるとともに、教師の地位と役割ならびに資質向上の在り方について講じる。			
授業計画			
第1回：教職の意義①：イントロダクション＋教職とは何か			
第2回：教職の意義②：教師の役割と仕事の特徴			
第3回：教職の役割①：教員養成と教師の歴史から見た教師像			
第4回：教職の役割②：現代の教師像と教師観			
第5回：教職の役割③：教師に求められる資質・能力と優れた教師の特徴			
第6回：教員の職務内容①：教師の専門性とそれを向上させる研修制度の意味			
第7回：教員の職務内容②：中学校・高等学校の教育の特徴と教師			
第8回：教員の職務内容③：教師の服務・義務			
第9回：教員の職務内容④：教員の役割とチーム学校			
第10回：教員の職務内容⑤：学校と保護者・地域との関係			
第11回：教育課題と教師①：児童生徒への指導と体罰・懲戒・不適切な行為			
第12回：教育課題と教師②：いじめ・不登校の理解の仕方			
第13回：教師のライフサイクル・成長する教師 職業としての教育と教師			
定期試験は実施しない			
※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト			
中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）			
高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）			
参考書・参考資料等			
・大野裕己・露口健司編（2022）『現代日本の教師』放送大学教育振興会			

・油布佐和子（2015）『現代日本の教師—仕事と役割』放送大学教育振興会

学生に対する評価

最終的な評価は、次の（1）から（3）の内容を組み合わせで行う。

[ ]に示す配点により総合的に評価する。

- （1）毎回の授業に対する課題コメント [3割]
- （2）中間レポート [3割]
- （3）最終レポート [4割]

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 臧 侑 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 到達目標は、次の項目を理解することである。 ①教職の意義と在り方、②教員の役割と求められる資質能力、③教員の職務内容・義務と教員研修の必要性、④教職員の連携・チーム学校の必要性			
授業の概要 近代日本の教員養成の歴史とその特質を講じるとともに、教師の地位と役割ならびに資質向上の在り方について講じる。			
授業計画 第 1 回：教職の意義（1） 公教育の目的と教職の意義、役割 第 2 回：教職の意義（2） 教師像の多角的検討 第 3 回：教職の意義（3） 社会に求められる理想の教師とは（討論） 第 4 回：教員の役割（1） 欧米思想影響下の教師と国家主義の流れの中の教師（明治期から戦前まで） 第 5 回：教員の役割（2） 戦後の教育改革と教員養成 第 6 回：教員の役割（3） 教職の専門性と求められる資質能力（教特法・教免法・ユネスコ勧告等の視点） 第 7 回：教員の職務内容の理解（1） 教員の養成・免許制度から見た教職に求められる基礎基本 第 8 回：教員の職務内容の理解（2） 教員の採用から見た教員に求められる資質能力 第 9 回：教員の職務内容の理解（3） 教育活動とその他の職務内容、教員の義務と権利 第10回：教員の職務内容の理解（4） 教員の資質向上と研修、学び続ける教員 第11回：多様化する学校の役割と「チーム学校」への対応（1） 子どもと学校をめぐる変化、教育課題の多様化 第12回：多様化する学校の役割と「チーム学校」への対応（2） 学校教育の役割の拡大と学校内外の連携 第13回：多様化する学校の役割と「チーム学校」への対応（3） 「チーム学校」への対応と教員の役割 定期試験			

※1回あたりの授業時間は105分

テキスト

『現代日本の教師を考える（改訂版）』岩本俊郎・浪本勝年編著、北樹出版、2016年10月

参考書・参考資料等

- 1、『教師教育研究ハンドブック』日本教師教育学会＜編＞、学文社、2017年9月
- 2、『教職論』岩田康之・高野和子編、学文社、2012年4月
- 3、『教育学概論』三輪定宣著、学文社、2017年9月
- 4、中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）
- 5、高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）

学生に対する評価

定期試験（80％）、レポート（20％）

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田口 賢太郎
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 到達目標は、次の項目を理解することである。 ①教職の意義と在り方、②教員の役割と求められる資質能力、③教員の職務内容・義務と教員研修の必要性、④教職員の連携・チーム学校の必要性			
授業の概要 近代日本の教員養成の歴史とその特質を講じるとともに、教師の地位と役割ならびに資質向上の在り方について講じる。			
授業計画 第1回：教師を目指すこと―授業の導入、概要と授業計画、評価方法の説明 第2回：初等教育における教師の仕事と役割 第3回：中等教育における教師の仕事と役割 第4回：教職と学校の国際比較 第5回：教師像の歴史的変遷 第6回：教員の服務 第7回：教員の権利と身分保障 第8回：研修、教師の職能成長 第9回：貧困、福祉、安全 第10回：チーム学校、教師と多職種連携 第11回：教えと学びの専門家 第12回：学校、教師が向き合う現代的課題 第13回：総括、振り返りとまとめ 社会の未来をつくる教師 定期試験は実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 佐久間亜紀・佐伯胖編著『現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年。			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』			

**学生に対する評価**

出席および授業内での積極的な取り組みを前提とし、各授業回で課す小課題（60%）、学期末レポート（40%）の内容と合わせて評価する。

授業科目名： 教育行政学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡田 愛
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教育行政のしくみと課題を理解すること、学校教育と教育行政がどの様に関わっているのかを理解することを本授業の目的とする。学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に基礎的知識も身に付ける。			
授業の概要 教育行政の任務と役割についての基本的事項を整理するとともに、教育行政が教育法規に基づいて整備・管理・運営してきた公教育制度を概観する。			
授業計画 第1回 はじめに：教育行政とは 第2回 日本の公教育制度（明治から戦前） 第3回 教育勅語を読む 第4回 日本の公教育制度（戦後から現代） 第5回 日本国憲法を読む 第6回 戦前・戦後の教育法制 第7回 新聞記事レポート発表①わかりやすく伝える工夫 第8回 国の教育行政の組織と機関 第9回 地方の教育行政の組織と機関 第10回 教育委員会と学校管理（学校安全への対応） 第11回 教育委員会と地域社会（学校と地域との連携） 第12回 新聞記事レポート発表②発言や議論を促す工夫 第13回 まとめ：現代の学校教育の課題 定期試験は実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 教育と教職のフロンティア（伊藤良高、岡田愛、荒井英治郎編著、晃洋書房、2021年）			
参考書・参考資料等 ポケット教育小六法（伊藤良高他、晃洋書房、2024年）、 中学校学習指導要領（平成29年3月告示）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）			
学生に対する評価			

授業への取り組み姿勢および毎回の授業課題への回答（60%）、中間レポート・期末レポート（40%）。

授業科目名： 教育法学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡田 愛
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では次のことを到達目標とする。</p> <p>①公教育の原理及び理念を理解し、説明することができる</p> <p>②公教育制度を構成している教育関係法規を理解し、説明することができる</p> <p>③教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解し、説明することができる</p> <p>④教育制度をめぐる諸課題について例示し、その内容と課題を説明することができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。各回に設定する学校教育に関する授業主題について、法制度上の位置づけを理解することを通じて、学校教育を法的観点から把握する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 はじめに：教育法規を学ぶ意味</p> <p>第2回 戦前・戦後の教育法制</p> <p>第3回 教育勅語と学校教育</p> <p>第4回 日本国憲法と学校教育</p> <p>第5回 教育基本法の成立と改正</p> <p>第6回 新聞記事レポート発表①わかりやすく伝える工夫</p> <p>第7回 教育の目的・目標と教育基本法</p> <p>第8回 生涯学習の理念・教育の機会均等と教育基本法</p> <p>第9回 義務教育と教育基本法</p> <p>第10回 教員の養成・研修と教育基本法（学校安全への対応）</p> <p>第11回 教育行政と教育基本法（学校と地域との連携）</p> <p>第12回 新聞記事レポート発表②発言と議論を促す工夫</p> <p>第13回 教育の中立性と教育基本法</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト</p> <p>教育と教職のフロンティア（伊藤良高、岡田愛、荒井英治郎編著、晃洋書房、2021年）</p>			

**参考書・参考資料等**

ポケット教育小六法（伊藤良高他、晃洋書房、2024年）、  
中学校学習指導要領（平成29年3月告示）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）

**学生に対する評価**

授業への取り組み姿勢（課題提出を含む）（60%）、中間レポート・期末レポート（40%）

授業科目名： 教育法学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白川 優治
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では次のことを到達目標とする。</p> <p>①公教育の原理及び理念を理解し、説明することができる</p> <p>②公教育制度を構成している教育関係法規を理解し、説明することができる</p> <p>③教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解し、説明することができる</p> <p>④教育制度をめぐる諸課題について例示し、その内容と課題を説明することができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。各回に設定する学校教育に関する授業主題について、法制度上の位置づけを理解することを通じて、学校教育を法的観点から把握する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション+学校制度と教育法体系の基本構造</p> <p>第2回：憲法26条と教育基本法の意味とその改正と教育振興基本計画</p> <p>第3回：文科省と教育委員会と学校の教育行政制度と法的関係</p> <p>第4回：義務教育制度の基本特性：年齢主義と就学制度</p> <p>第5回：学級編成の制度的特性とその意味</p> <p>第6回：教員に関する法制度と「チーム学校」・専門職連携</p> <p>第7回：教育課程と学習指導要領・教科書制度</p> <p>第8回：学校と地域：コミュニティ・スクールと地域学校協働活動</p> <p>第9回：教育課題と教育法規（1）：体罰と懲戒</p> <p>第10回：教育課題と教育法規（2）：いじめ・児童虐待</p> <p>第11回：学校の安全管理：事件・事故・災害と安全教育</p> <p>第12回：青少年の保護：子どもの貧困・教育格差</p> <p>第13回：学校・教育をめぐる新たな課題と教育制度</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
テキスト			

授業時に適宜配付する

参考書・参考資料等

浪本勝年代表編（2025）『ハンディ教育六法 2025年度版』北樹出版

阿内春生 編（2024）『基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論』昭和堂

学生に対する評価

最終的な評価は、次（1）から（3）の内容を組み合わせで行う。

[ ]に示す配点により総合的に評価する。

（1）毎回の授業に対するコメント [3割]

（2）中間テスト [3割]

（3）最終確認テスト [4割]

授業科目名： 生涯学習概論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 栗山 究
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
学校教職員、社会教育主事、学芸員および図書館司書等の仕事に必要な、生涯学習の制度的・歴史的経緯及び関係条例等から社会教育専門職員の役割や課題について説明できる。			
授業の概要			
生涯学習の実践や歴史に学び、その制度や法制度を理解する。子どもの学校外の学びや大人の学びの実践から人権としての学び（学習権）の理解を深め、「学ぶこと」の意味を考察する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：自分自身のこれまでの学びをふりかえる			
第2回：成人の学びの特徴と成人の学習論の展開			
第3回：実践共同体への正統的周辺参加論とコミュニティでの学び			
第4回：基礎教育の課題と展望			
第5回：成人教育に関わる国際的議論			
第6回：生涯学習という理念と学習権思想			
第7回：ノンフォーマル教育の可能性			
第8回：生涯学習概念の成立：学校教育・社会教育と生涯学習社会			
第9回：社会教育施設である図書館・博物館・公民館等の役割			
第10回：地域社会に根ざした社会教育施設における実践			
第11回：住民の学びあいを地域で支える人たちの実践分析			
第12回：住民の学びあいから生まれた学習拠点における実践			
第13回：各自が参加・経験してきた実践事例のグループ別発表会			
定期試験は実施しない			
※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト			
特に指定せず、各回テーマに応じて、担当教員が作成する。			
参考書・参考資料等			
(1) 『ノンフォーマル教育の可能性 リアルな生活に根ざす教育へ』丸山英樹・太田美幸編、新評論、2013年。(2) 『放課後博物館へようこそ 地域と市民を結ぶ博物館』浜口哲一、地人書館、2000年。(3) 『生涯学習のグローバルな展開 ユネスコ国際成人教育会議がつなぐSDG4の達成』長岡智寿子・近藤牧子編著、東洋館出版社、2020年。(4) 『共生への学びを拓く SD			

Gsとグローバルな学び』佐藤一子・大安喜一・丸山英樹編、エイデル研究所、2022年。(5)  
『生涯学習と社会教育の基礎』津田英二・伊藤真木子・鈴木真理編、人言洞、2024年。ほか

学生に対する評価

(1) 課題レポート (30%)、(2) 期末レポート (30%)、(3) 授業への取組み姿勢 (40%)  
で判定し、総合評価60点以上を合格とする。(1) (2) は単位修得の必要条件となる。

授業科目名： 生涯学習概論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 詹 瞻
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学校教職員、社会教育主事、学芸員および図書館司書等の仕事に必要な、生涯学習の制度的・歴史的経緯及び関係条例等から社会教育専門職員の役割や課題について説明できる。			
授業の概要 生涯学習の実践や歴史に学び、その制度や法制度を理解する。子どもの学校外の学びや大人の学びの実践から人権としての学び（学習権）の理解を深め、「学ぶこと」の意味を考察する。			
授業計画 第1回：前期授業のガイダンスー授業の目的と進め方 第2回：生涯学習とは何か 第3回：生涯学習・社会教育の歴史：戦後戦後社会教育の生成と展開 第4回：生涯学習の登場と法制及び行政 第5回：生涯学習・社会教育の対象と方法 第6回：海外の生涯学習に関する理論と動向(1)ーUNESCOの生涯学習の理念 第7回：海外の生涯学習に関する理論と動向(2)ーOECDのスキルとしての生涯学習論 第8回：生涯学習・社会教育と地域社会(1)ー関連施設：公民館・図書館 第9回：生涯学習・社会教育と地域社会(2)ー関連施設：博物館 第10回：生涯学習・社会教育と地域社会(3)ー学校と社会教育の連携 第11回：世界の生涯学習の今(1)ー東アジアにおける多文化・多民族と生涯学習 第12回：世界の生涯学習の今(2)ー欧米諸国における多文化・多民族と生涯学習 第13回：まとめとふりかえり 定期試験は実施しない (テーマや内容は進行状況に応じて変更される場合があります。) ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 『社会教育・生涯学習（Minerva はじめて学ぶ教職）』 手打明敏，上田孝典編著、ミネルヴァ書房、2019年			
参考書・参考資料等 『社会教育新論：「学び」を再定位する』牧野篤編著、ミネルヴァ書房、2022年			

『社会教育・生涯学習ハンドブック』 社会教育推進全国協議会編、エイデル研究所、2017年

学生に対する評価

・平常点評価：60%

授業時におけるリアクションペーパー提出の提出（30%）と授業への取り組み姿勢（30%）を評価する。

・レポート課題：40%

授業内容を踏まえたレポートを期末に提出。内容の質を評価。・平常点評価：60%

授業科目名： 生涯学習概論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永澤 義弘
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学校教職員、社会教育主事、学芸員および図書館司書等の仕事に必要な、生涯学習の制度的・歴史的経緯及び関係条例等から社会教育専門職員の役割や課題について説明できる。			
授業の概要 生涯学習の実践や歴史に学び、その制度や法制度を理解する。子どもの学校外の学びや大人の学びの実践から人権としての学び（学習権）の理解を深め、「学ぶこと」の意味を考察する。			
授業計画 【第1回】授業のすすめ方について 【第2回】社会教育法と公民館の成立 【第3回】社会教育施設（青少年・青年・野外活動）と生涯学習 【第4回】社会教育施設（公民館）と生涯学習 【第5回】社会教育施設（図書館）と生涯学習 【第6回】社会教育施設（博物館）と生涯学習 【第7回】生涯学習レポートの書き方 【第8回】世界の生涯学習政策 【第9回】開かれた学校と社会教育 【第10回】地域文化と生涯学習 【第11回】地域スポーツと生涯学習 【第12回】地域防災教育と生涯学習 【第13回】まとめ 定期試験は実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 授業時に適宜配付する。			
参考書・参考資料等 手打明敏 『会教育・生涯学習』 ミネルヴァ書 2019年1月			
学生に対する評価 レポート（50%）とコメントカード・授業への取り組み姿勢（50%）で評価する。			

授業科目名： 生涯学習概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 栗山 究
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学校教職員、社会教育主事、学芸員、図書館司書等の仕事について、先進的な社会教育実践事例から学び、専門職員に必要な基礎的知識や理論を説明できる。			
授業の概要 生涯学習が、成人（おとな）の自主的・自発的な学びを公的に支援する理念を学び、その今日的な役割について各地域の実践活動に学ぶ。			
授業計画 第1回：生涯学習を構成する教育の三形態（ノンフォーマル教育など） 第2回：青年会と共同学習の実践 第3回：たまり場づくりの実践 第4回：社会環境の変化と青年期教育の現在 第5回：居場所論のもつ意味を考える 第6回：若者の社会参画とユースワークという働き 第7回：若者が育ちあう場をつくる実践の射程 第8回：学校から社会への移行の困難 第9回：教育福祉と地域づくりを介した学びのあり方 第10回：共生社会の実現に向けたインクルーシブな実践 第11回：暮らしに根ざす学びあいの拠点・空間づくりの歴史的展開 第12回：新自由主義政策の導入と生涯学習社会のゆくえ 第13回：人口減少時代の地域社会と社会教育のあり方 定期試験が実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 特に指定せず、各回テーマに応じて、担当教員が作成する。			
参考書・参考資料等 (1) 『ユースワークとしての若者支援 場をつくる・場を描く』平塚真樹編・若者支援とユースワーク研究会著、大月書店、2023年。(2) 『孤独と居場所の社会学 なんでもない“わたし”で生きるには』阿比留久美、大和書房、2022年。(3) 『＜共生と自治＞の社会教育 教育福			

祉と地域づくりのポリフォニー』辻浩、旬報社、2022年。(4) 『「思想」としてのわいがや』井口啓太郎・入山頌・宇佐美理・島本優子編、障害をこえてともに自立する会、2021年。(5) 『日本社会教育史』大串隆吉・田所祐史、有信堂、2021年。ほか

学生に対する評価

(1) 期末レポート(40%)、(2) 授業の取組み姿勢(60%)で判定し、総合評価60点以上を合格とする。(1)は単位修得の必要条件となる。

授業科目名： 生涯学習概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 詹 瞻
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学校教職員、社会教育主事、学芸員、図書館司書等の仕事について、先進的な社会教育実践事例から学び、専門職員に必要な基礎的知識や理論を説明できる。			
授業の概要 生涯学習が、成人（おとな）の自主的・自発的な学びを公的に支援する理念を学び、その今日的な役割について各地域の実践活動に学ぶ。			
授業計画 第1回：後期授業のガイダンスー授業の目的と進め方 第2回：生涯各期の学習課題と地域課題(1)ー子ども・子育て 第3回：生涯各期の学習課題と地域課題(2)ー貧困と成人教育 第4回：生涯各期の学習課題と地域課題(3)ー高齢者・障害者などの自己実現 第5回：NPO・市民活動と生涯学習・社会教育 第6回：協働・共生を支える地域づくりと社会教育施設 第7回：市民教育の場としての博物館 第8回：地域社会における博物館の歴史と現在 第9回：地域社会における博物館と学校の連携 第10回：地域社会における生涯学習を支える社会教育専門職員の役割 第11回：海外における生涯学習事例分析(1)ー欧米諸国の生涯学習と博学連携の事例 第12回：海外における生涯学習事例分析(2)ー東アジアの生涯学習と博学連携の事例 第13回：まとめとふりかえり 定期試験は実施しない (テーマや内容は進行状況に応じて変更される場合があります。) ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 『社会教育・生涯学習（Minerva はじめて学ぶ教職）』 手打明敏，上田孝典編著、ミネルヴァ書房 2019年			
参考書・参考資料等 『世界の生涯学習：現状と課題』新海英行，松田武雄編著、大学教育出版、2016年			

『社会教育・生涯学習ハンドブック』 社会教育推進全国協議会編、エイデル研究所、2017年

学生に対する評価

・平常点評価：60%

授業時におけるリアクションペーパー提出の提出（30%）と授業への取り組み姿勢（30%）を評価する。

・レポート課題：40%

授業内容を踏まえたレポートを期末に提出。内容の質を評価。

授業科目名： 生涯学習概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永澤 義弘
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学校教職員、社会教育主事、学芸員、図書館司書等の仕事について、先進的な社会教育実践事例から学び、専門職員に必要な基礎的知識や理論を説明できる。			
授業の概要 生涯学習が、成人（おとな）の自主的・自発的な学びを公的に支援する理念を学び、その今日的な役割について各地域の実践活動に学ぶ。			
授業計画 【第1回】授業のすすめ方について 【第2回】子どもの暮らしと社会教育 【第3回】若者支援と居場所づくり 【第4回】女性の学びと生涯学習 【第5回】障害を持つ青年のまなびと生涯学習 【第6回】【第6回】高齢者の学びと生涯学習 【第7回】教育レポートの書き方 【第8回】地域づくりと生涯学習 【第9回】ボランティア・NPOと生涯学習 【第10回】患者図書館と生涯学習 【第11回】夜間中学と学ぶ権利 【第12回】自己教育と学習権 【第13回】まとめ 定期試験は実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 授業時に適宜配付する。			
参考書・参考資料等書・参考資料等 手打明敏 『会教育・生涯学習』 ミネルヴァ書 2019年1月			
学生に対する評価 レポート（50％）とコメントカードや授業への取り組み姿勢（50％）で評価する。			

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 丹治（堤） 恭子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 教育現象とそれが生じた社会背景を理解することができる。</p> <p>2. 「教育問題」に関する自分なりの考察を加えることができる。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、教育社会学の基礎的な概念や、研究対象・手法を学ぶことを通じて、教育を社会現象としてみる見方や方法を身につけることを目的とする。加えて、教育現象を社会学的に分析した結果に触れることによって、教育をめぐる今日的な状況を的確に把握する手がかりを得ることも目的の1つとする。</p> <p>講義では、全体を大きく3部に分け、教育社会学の基礎的な概念を踏まえた後に、教育の社会的機能を概説し、最後に、現代社会における教育事象を取り上げ、社会学的な視点から考察を加える。</p>			
授業計画			
第1回：イントロダクション——社会の中の教育			
I. 教育社会学の視座と方法			
第2回：教育社会学の見方——教育学と社会学			
第3回：教育社会学の対象と方法			
II. 学校の社会的機能			
第4回：社会化			
第5回：かくれたカリキュラム			
第6回：選抜・配分			
第7回：学歴と社会階層			
第8回：正当化			
III. 「教育問題」への社会学的取り組み			
第9回：学校に行かない子ども			
第10回：いじめ			
第11回：ディスアビリティと教育			
第12回：教育におけるジェンダー			
第13回：エスニシティと教育			

定期試験
※1回あたりの授業時間は105分
テキスト
飯田浩之・岡本智周 編著『教育社会学 (MINERVAはじめて学ぶ教職)』2018 ミネルヴァ書房
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価
試験 (60%)、各回の授業外学修課題 (25%) および授業への取り組み姿勢 (15%)

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮崎（経澤） 智絵
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育現象とそれが生じた社会背景を理解することができる。 2. 「教育問題」に関する自分なりの考察を加えることができる。			
授業の概要			
本講義では、教育社会学の基礎的な概念や、研究対象・手法を学ぶことを通じて、教育を社会現象としてみる見方や方法を身につけることを目的とする。			
授業計画			
第1回：教育社会学とは何か、また学ぶ意義			
第2回：社会現象としての教育			
第3回：社会と教育制度とカリキュラム			
第4回：社会における学校と教員			
第5回：教育の格差と不平等			
第6回：教育と文化再生産			
第7回：家族と子どもの教育			
第8回：地域社会と教育			
第9回：ネットワーク社会と教育			
第10回：現代社会の教育問題1(いじめ)			
第11回：現代社会の教育問題2(非行と不登校)			
第12回：アジアの社会と教育制度			
第13回：欧米の社会と教育制度			
定期試験			
※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト			
荻谷剛彦他『教育の社会学』有斐閣アルマ, 2013年			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			
レポート(50%)と定期試験(50%)の総合評価			

授業科目名： 教職特講	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 好本 恵
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 基本的人権や学習権保証の多様な取り組みの中から、生涯学習や異文化コミュニケーション、その前提としての音声表現等について理論を深く学び、実践の技術を習得する。			
授業の概要 テーマについて深く掘り下げ、小人数でのワークやディスカッション等を通して体験的・実践的に学ぶ。			
<b>【授業計画】</b> <b>【第1回】</b> 日本語の音声表現について基礎を学ぶ <b>【第2回】</b> 「読み」と「朗読」の基本 <b>【第3回】</b> わかりやすく「話す」「伝える」 <b>【第4回】</b> スピーチ・発表のポイント <b>【第5回】</b> 音声表現の問題点や課題を探る <b>【第6回】</b> 『敬語の指針』を中心に敬語の基本を身につける <b>【第7回】</b> 教育現場での敬語の使い方について <b>【第8回】</b> 子どものことばの発達について考察する <b>【第9回】</b> 「聞く」「聴く」「訊く」それぞれの違いとポイント <b>【第10回】</b> 医療・介護の場でのコミュニケーション <b>【第11回】</b> インタビューと報告 <b>【第12回】</b> 効果的なプレゼンテーション <b>【第13回】</b> 教育現場でのコミュニケーションとメディア教育について 定期試験は行わない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 授業中に適宜配付する。			
参考書・参考資料等 『声の文化を楽しむ』好本恵 日外アソシエーツ 2020			
学生に対する評価 毎回の授業への取り組み(50%) レポート(50%) による			

授業科目名： 教職特講	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 久恵
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 基本的人権や学習権保証の多様な取り組みの中から、生涯学習や異文化コミュニケーション、その前提としての音声表現等について理論を深く学び、実践の技術を習得する。			
授業の概要 テーマについて深く掘り下げ、小人数でのワークやディスカッション等を通して体験的・実践的に学ぶ。			
授業計画 第1回：ライフストーリーについて①『教師のライフコース』序章「研究の目的と方法」 第2回：ライフストーリーについて②（実践：教育体験記の作成①）『教師のライフコース』第一章「家庭と学校で受けた教育」 第3回：ライフストーリーについて③（実践：教育体験記の作成②）『教師のライフコース』第二章「師範学校への入学とその教育」 第4回：教職の研究(1)ビデオ分析（授業の構成）『教師のライフコース』第三章「教師としての成長を支えるもの」 第5回：教職の研究(2)ビデオ分析（発達の最近接領域）『教師のライフコース』第四章「最初の10年間」 第6回：教職の研究(3)学校における管理職・校長の役割『教師のライフコース』第五章「学校という場とその影響」 第7回：NIEの体験① 第8回：NIEの体験②『教師のライフコース』第六章「管理職期の経験」 第9回：NIEの体験③『教師のライフコース』第七章「激動する時代のなかで」 第10回：NIEの体験④発表と議論『教師のライフコース』第八章「教師にとって必要な力量」 第11回：文献（NIEと外国籍児童・生徒に関する実践について①）講読・発表と議論 第12回：文献（NIEと外国籍児童・生徒に関する実践について②）発表と議論 第13回：まとめ『教師のライフコース』終章「教師教育への示唆」 定期試験は実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト			

教師のライフコース 稲垣忠彦他 東京大学出版会 1988 ISBN4-13-053076-3

参考書・参考資料等

教育の方法と技術 佐藤学 左右社 2021 ISBN978-4-903500-34-8

学生に対する評価

演習の取り組みの様子 (50%) と適宜課すレポート内容 (50%) に基づいて評価。

授業科目名： 教職特講	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永澤 義弘
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 基本的人権や学習権保証の多様な取り組みの中から、生涯学習や異文化コミュニケーション、その前提としての音声表現等について理論を深く学び、実践の技術を習得する。			
授業の概要 テーマについて深く掘り下げ、小人数でのワークやディスカッション等を通して体験的・実践的に学ぶ。			
授業計画 【第1回】授業のすすめ方について 【第2回】障害者青年学級と生涯学習 【第3回】就労支援と学習 【第4回】障害をもつ人と喫茶コーナー 【第5回】課題レポートの書き方 【第6回】ユネスコ学習権宣言と基本的人権 【第7回】社会教育施設の役割と法制度 【第8回】ボランティア・NPOと住民の学習 【第9回】社会教育職員の役割と専門性 【第10回】】不登校・学校中退者の学習支援 【第11回】子どもと教育福祉の課題 【第12回】共に生きるための学び 【第13回】まとめ 定期試験は実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト 授業時に適宜配付する。			
参考書・参考資料等 小林 繁編著 『地域福祉と生涯学習』 現代書館 2012年11月 松田泰幸他著 『障害をもつ人の生涯学習支援』 旬報社 2021年7月			

学生に対する評価

レポート（50％）とコメントカード・授業への取り組み姿勢（50％）で評価する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青木 弥生
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>幼児、児童及び生徒の発達と学習の過程について、心理学的な知識と考え方を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習指導の基礎となる考え方を理解する。到達目標は次の2つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期から青年期までの心身の発達過程や発達上の諸問題を理解する。</li> <li>2. 乳幼児期から青年期までの学習に関する知識を身につけ、学習指導のあり方を理解する。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>教育心理学の基礎的な事項についての解説に加え、教育心理学の知見を具体的な指導の手掛かりとし、教育実践に結び付けられるよう、発達や学習、教育に関する事例や具体的問題と関連づけながら学びを進めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：教育心理学を学ぶ意味</p> <p>第2回：発達理論：遺伝と環境、成熟</p> <p>第3回：乳幼児期から青年期までの心身の発達：心の発達と身体・運動発達</p> <p>第4回：乳幼児期から青年期までの心身の発達：認知（言語を含む）の発達</p> <p>第5回：乳幼児期から青年期までの心身の発達：社会性の発達と友人関係</p> <p>第6回：学習のメカニズム：学習の理論</p> <p>第7回：学習の動機づけ</p> <p>第8回：記憶のメカニズムと学習</p> <p>第9回：知能の定義と非認知能力</p> <p>第10回：学習集団と指導、その評価</p> <p>第11回：児童・生徒の学習の過程と教授学習理論</p> <p>第12回：児童生徒の個性の理解とその支援</p> <p>第13回：全体のふりかえりとまとめ、試験</p> <p>定期試験</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時に適宜配付する。</p>			

参考書・参考資料等

中谷・中山・町(2022)エピソードに学ぶ教育心理学 有斐閣

その他、各回の授業内容を深めるための参考文献を適宜授業内で紹介する。

学生に対する評価 授業内課題3割程度、定期試験7割程度

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金山（渡邊） 富貴子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>幼児、児童及び生徒の発達と学習の過程について、心理学的な知識と考え方を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえて学習指導の基礎となる考え方を理解する。到達目標は次の2つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児期から青年期までの心身の発達過程や発達上の諸問題を理解する。</li> <li>2. 幼児期から青年期までの学習に関する知識を身につけ、学習指導のあり方を理解する。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>教育心理学の基礎的な事項についての解説に加えて、発達や学習にかかわる具体的問題を取り上げて説明する。学生が、教育心理学の知見を身につけ、問題解決に必要な具体策を考えることができるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育心理学とは</p> <p>第2回：発達と発達課題</p> <p>第3回：乳児期～児童期の発達</p> <p>第4回：青年期～老人期の発達</p> <p>第5回：知能の発達</p> <p>第6回：人格の発達</p> <p>第7回：遺伝と環境</p> <p>第8回：発達障害と特別支援教育</p> <p>第9回：学習理論</p> <p>第10回：学習意欲</p> <p>第11回：学習指導法</p> <p>第12回：教育評価</p> <p>第13回：総括</p> <p>定期試験</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト</p> <p>鎌原雅彦・竹綱誠一郎 2019「やさしい教育心理学 第5版」有斐閣アルマ</p>			

参考書・参考資料等

心理科学研究会編 2012「中学・高校の教師になるための教育心理学 第3版」有斐閣選書

学生に対する評価

定期試験(75%)、授業への取り組み(25%)。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野田 満
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>幼児、児童及び生徒の発達と学習の過程について、心理学的な知識と考え方を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえて学習指導の基礎となる考え方を理解する。到達目標は次の2つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児期から青年期までの心身の発達過程や発達上の諸問題を理解する。</li> <li>2. 幼児期から青年期までの学習に関する知識を身につけ、学習指導のあり方を理解する。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>教育心理学の基礎的な事項についての解説に加えて、発達や学習にかかわる具体的問題を取り上げて説明する。学生が、教育心理学の知見を身につけ、問題解決に必要な具体策を考えることができるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育心理学の目的</p> <p>第2回：教育心理学の歴史と方法1（科学的心理学への転換）</p> <p>第3回：教育心理学の歴史と方法2（集団の心理）</p> <p>第4回：知能の問題</p> <p>第5回：発達理論（遺伝と環境）</p> <p>第6回：発達理論（成熟）</p> <p>第7回：発達の原理1（遺伝環境相互既定の原理）</p> <p>第8回：発達の原理2（発達曲線と臨界期）</p> <p>第9回：学習理論の展開1（教師のイラショナル・ビリーフ）</p> <p>第10回：学習理論の展開2（PM理論・教師のリーダーシップ性）</p> <p>第11回：発達と教科学習（主体的な学習とは）</p> <p>第12回：発達と教科学習（主体的な学習と動機づけ）</p> <p>第13回：総括</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時に適宜配付する。</p>			

参考書・参考資料等：

授業時に適宜指示する。

学生に対する評価

最終週の授業内でのレポート（80%）と毎回行うリアクションペーパー（20%）により成績をつける。毎回のリアクションペーパーの提出により一定の成績は補償される。ただし両方の配点についてはカッコ内の割合を目安とするので注意。最終週でのレポートは、課題を事前に告げるが、それまでの授業と深く関わりのある内容となる。Web Classに提出。

授業科目名： 学習心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野田 満
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
1. ヒトが人になっていく過程（発達）と学習のしくみを理解する。 2. 学習心理学の視点を踏まえた授業の構成や学習指導について理解する。			
授業の概要			
教職で学習心理学を学ぶ意義として、ヒトが人になっていく過程（発達）と学習のしくみを理解した上で、具体的な授業場面や自らの学習指導に活かす力を養うことを目的とする。			
授業計画			
第1回：人にとって学習とは			
第2回：古典的条件づけ理論			
第3回：オペラント条件づけ理論（オペラントとレスポナント）			
第4回：オペラント条件づけ理論（トークンエコノミー法と教育）			
第5回：社会的学習理論			
第6回：観察学習			
第7回：知覚運動学習			
第8回：初期経験・初期学習			
第9回：セルフコントロール1（行動療法・認知行動療法）			
第10回：セルフコントロール2（イメージトレーニング、リラクゼーション）			
第11回：初心者と熟達者			
第12回：個性と学習方法			
第13回：総括			
定期試験は実施しない。			
※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト			
授業時に適宜配付する。			
参考書・参考資料等			
授業時に適宜指示する。			
学生に対する評価			
レポート（60%）、簡易実験の報告書提出（20%）、毎回のリアクションペーパー（20%）そ			

れぞれを目安とする。

授業科目名： 学習心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鹿嶋（佐藤） 真弓
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
1. ヒトが人になっていく過程（発達）と学習のしくみを理解する。 2. 学習心理学の視点を踏まえた授業の構成や学習指導について理解する。			
授業の概要			
教職で学習心理学を学ぶ意義として、ヒトが人になっていく過程（発達）と学習のしくみを理解した上で、具体的な授業場面や自らの学習指導に活かす力を養うことを目的とする。			
授業計画			
第1回： ガイダンス：教職で心理学を学ぶ意義			
第2回： 発達の原理			
第3回： 乳児期の発達・幼児期の発達			
第4回： 児童期の発達			
第5回： 青年期の発達			
第6回： 発達と教育			
第7回： 学習の理論：経験により反応が変わる			
第8回： 学習の理論：経験により頭のなかが変わる			
第9回： 学習と記憶			
第10回： 動機づけ：やる気のメカニズム			
第11回： 学力と知能のあらたな観点			
第12回： 学級集団づくり			
第13回： 障害の理解：特別支援教育を知ろう			
定期試験は実施しない			
※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト			
教職ベーシック 発達・学習の心理学【新2版】（柏崎秀子著、北樹出版）			
参考書・参考資料等			
問いを創る授業（鹿嶋真弓・石黒康夫著、図書文化）			
ひらめき体験教室へようこそ（鹿嶋真弓著、図書文化）			

学生に対する評価

グループ・ディスカッション (4点×15回=60点) 、プレゼン (40点)

授業科目名： 青年心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鹿嶋（佐藤） 真弓
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 青年期の精神発達上の特徴を理解する。</p> <p>2. 青年期において人間関係を確立することの意義を理解する。</p>			
授業の概要			
<p>青年期における認識能力と自我の発達に関する諸問題を中心に講義する。現代社会の中では、自己を確立するための環境は貧困になってきており、そのことが自立へと向かう過程を見えにくいものにし、理想とする人間像やモデルの喪失、自己肯定感の低下など様々な問題を招いている。受講学生の皆さんには、そうした青年期の諸問題について理解すると同時に、自己を再発見し、自己認識を深め、真に生きる力を高めてもらいたい。</p>			
授業計画			
第1回： 生涯発達の中の青年期			
第2回： 青年期の身体的変化と心理的影響			
第3回： 認知と感情の発達			
第4回： 自己意識の形成			
第5回： アイデンティティの発達			
第6回： 青年期の親子関係			
第7回： 青年期の恋愛関係			
第8回： 社会性の発達			
第9回： 学校の中の青年			
第10回： 地域で育つ青年			
第11回： 青年のキャリア発達			
第12回： 青年期の社会不適応			
第13回： 生きることの意味			
定期試験は実施しない			
※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト			
レクチャー青年心理学（高坂康雅・池田幸恭・三好昭子著、風間書房）			
参考書・参考資料等			

君の悩みに答えよう 青年心理学者と考える10代・20代のための生きるヒント (大野久・小塩真司他著、福村出版)

エピソードでつかむ青年心理学 (大野久著、ミナルヴァ書房)

学生に対する評価

課題レポート6回 (8点×6回=48点)

掲示板を利用したディスカッション (4点×13回=52点)

授業科目名： 青年心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石川（柳田） 茜恵
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 青年期の精神発達上の特徴を理解する。</p> <p>2. 青年期において人間関係を確立することの意義を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>青年期における認識能力と自我の発達に関する諸問題を中心に講義する。現代社会の中では、自己を確立するための環境は貧困になってきており、そのことが自立へと向かう過程を見えにくいものにし、理想とする人間像やモデルの喪失、自己肯定感の低下など様々な問題を招いている。受講学生の皆さんには、そうした青年期の諸問題について理解すると同時に、自己を再発見し、自己認識を深め、真に生きる力を高めてもらいたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：青年期の誕生と現代青年期の特徴</p> <p>第2回：青年期の発達（1）身体発達</p> <p>第3回：青年期の発達（2）認識の発達</p> <p>第4回：青年期の発達（3）時間と空間の広がり</p> <p>第5回：青年期における課題（1）時間的展望の発達</p> <p>第6回：青年期における課題（2）アイデンティティの確立</p> <p>第7回：青年期における課題（3）様々な移行</p> <p>第8回：青年と他者（1）友人・恋人との関わり</p> <p>第9回：青年と他者（2）大人との関わり</p> <p>第10回：青年期における適応・不適応（1）自己の問題</p> <p>第11回：青年期における適応・不適応（1）精神障害</p> <p>第12回：青年期における不適応・不適応（2）学校の問題</p> <p>第13回：まとめ：青年とどう関わるか</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

「君の悩みに答えよう——青年心理学者と考える10代・20代のための生きるヒント」日本青年心理学会企画，2017，福村出版 この他，授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験60%，毎回の授業の最後に提出する小レポート40%

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 恵
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーマライゼーションやインクルーシブ教育の世界的な動向について理解する。</li> <li>・様々な障がいの特性や関わり方について学び考える。</li> <li>・特別支援教育の具体的な実践事例を知る。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>様々なニーズをもつ生徒たちが共に学ぶ「インクルーシブ教育」が世界的な流れとなっており、日本の学校においても今後ますます特別な支援を必要とする生徒たちが通常学校・通常学級で学ぶ選択をしていくことが考えられる。そこで、この講義では、主に障がいという面で特別な支援を必要とする生徒たちに、学校教育の場で具体的にどのような支援をしていけばよいのか、文献を共に読み解いていくことや様々な実践事例を学ぶことを通して、各自の考えを深め、個々のニーズに応じた教育実践を行えるようにすることを目的とする。</p>			
授業計画			
第1回：特別支援教育の理念と支援、特別支援教育の仕組み			
第2回：知的障害の理解と支援			
第3回：発達障害の理解と支援（1）ASD・ADHD・LDの基本的事項を学ぶ			
第4回：発達障害の理解と支援（2）具体的支援とICT機器の利用			
第5回：視覚障害の理解と支援			
第6回：聴覚障害の理解と支援			
第7回：肢体不自由・重症心身障害の理解と支援			
第8回：病弱・身体虚弱、情緒障害の理解と支援			
第9回：通級による指導と自立活動の考え方の理解			
第10回：個別の指導計画と教育支援計画作成の意義と方法			
第11回：関連機関との連携の方法、就学までの仕組みとその実際、保護者やきょうだいの理解とその支援			
第12回：LGBTQ <sup>+</sup> 、貧困状態、生活する社会と異なる文化で暮らすなど特別な支援を必要とする児童生徒への具体的対応			
第13回：具体的事例の検討			
定期試験は実施しない			

※1回あたりの授業時間は105分

テキスト

インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門〈第2版〉大塚玲 萌文書林  
2019

参考書・参考資料等

適宜授業内で指示する。

学生に対する評価

リアクションペーパー40%、レポート50%、授業への取り組みの姿勢10%とし、到達目標と照らし合わせ評価をおこなう。

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村上 美奈子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーマライゼーションやインクルーシブ教育の世界的な動向について理解する。</li> <li>・様々な障がいの特性や関わり方について学び考える。</li> <li>・特別支援教育の具体的な実践事例を知る。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>様々なニーズをもつ生徒たちが共に学ぶ「インクルーシブ教育」が世界的な流れとなっており、日本の学校においても今後ますます特別な支援を必要とする生徒たちが通常学校・通常学級で学ぶ選択をしていくことが考えられる。そこで、この講義では、主に障がいという面で特別な支援を必要とする生徒たちに、学校教育の場で具体的にどのような支援をしていけばよいのか、文献を共に読み解いていくことや様々な実践事例を学ぶことを通して、各自の考えを深め、個々のニーズに応じた教育実践を行えるようにすることを目的とする。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、ノーマライゼーションとインクルーシブ教育について			
第2回：グループワーク（これまでに参加したボランティア活動等を振り返って）			
第3回：知的障がい児の特性の理解			
第4回：知的障がい児に対する支援			
第5回：発達障がい児の特性の理解			
第6回：発達障がい児に対する支援			
第7回：身体障がいの理解と支援			
第8回：視覚・聴覚障がいの理解と支援			
第9回：通級指導等の特別支援教育の制度および「自立活動」等のカリキュラム			
第10回：言語や生活習慣の異なる子どもの教育について			
第11回：家庭環境を踏まえた教育的支援と貧困			
第12回：多様な生徒どうしが共に学ぶ実践事例から学ぶ（「全生研」）			
第13回：まとめ			
定期試験			
※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト			

大塚玲編『インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門』萌文書林、2019年

参考書・参考資料等

木村 泰子『「みんなの学校」をつくるために』小学館、2019年

学生に対する評価

授業への取り組み姿勢（60%）、および試験（40%）の結果を勘案して総合的に評価する。

授業科目名： カリキュラム論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 洋行
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。			
授業の概要			
学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解させる。教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解させる。教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解させる。			
授業計画			
第1回：カリキュラムとは何か 授業の概要			
第2回：中学校・高等学校学習指導要領の性格及び位置付けを理解する。			
第3回：教育課程編成の目的と目標を理解する。			
第4回：教育課程編成の基本原則を理解する。			
第5回：教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解する。			
第6回：中学校・高等学校学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容について理解する。			
第7回：中学校・高等学校学習指導要領の改訂の変遷の社会的背景を理解する。			
第8回：教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。			
第9回：単元・学期・学年を超え長期的な視野から教育課程・指導計画の意義を理解する。			
第10回：生徒、学校、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解する。			
第11回：学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解する。			
第12回：カリキュラム評価の理論的、歴史的展開を理解する。			
第13回：総括とまとめ			
定期試験は実施しない ※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト：安彦忠彦『新版カリキュラム研究入門』			
参考書・参考資料等：適宜、提示する			
学生に対する評価			
授業振り返り課題（40%）、まとめレポート4回（各15点×4=60点）の合計100点換算で評価			

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 植村 利英子、小玉 容子 増田 修治 担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習（探究）の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を身につける。</p> <p>総合的な学習（探究）の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>時代によって変化してきた教育方法について学び、現代社会では子どもたちにどのような力をつけさせる必要があるのか、そのためにはどのような教育方法が必要なのか考察します。特に「総合的な学習（探究）の時間」とアクティブ・ラーニングの具体的な内容と方法を探究します。実際の教育実践例を通して、「主体的・対話的で深い学び」とは何かを考察し、児童・生徒の課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力を向上させるような教育内容と方法について、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション形式で探究します。そして、実際に授業の内容や方法を考案し、模擬授業を行います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>【第1回】ガイダンス、教育方法とは何か考察する①～社会の変化と教育方法～ 現代の子どもたちに求められる資質・能力とは何かを考察し、その育成に必要な教育方法を学ぶ。</p> <p>【第2回】教育方法とは何かを考察する②～国や時代による違い～ 思考力とは何かを考察し、教育方法の目的（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。</p> <p>【第3回】学習指導要領の変遷と教育方法について考察する。</p> <p>【第4回】アクティブ・ラーニングの様々な手法を学ぶ。学習評価の基礎的な考え方を理解する。</p> <p>【第5回】総合的な学習（探究）の時間の意義と役割について、必要となる教科横断的な資質・能力の育成の視点から理解する。</p> <p>【第6回】総合的な学習（探究）の時間の年間指導計画とその具体的な事例を理解し、指導計画を考案する。</p> <p>【第7回】主体的・対話的で深い学びを実現するような総合的な学習の時間の単元計画の具体的な事例を理解し、単元計画を考案する。</p>			

【第8回】模擬授業①（目標・内容・教材・教具・授業展開、評価規準等を含めた学習指導案を作成できる。）

【第9回】模擬授業②（話法・板書など授業を行う上での基礎的な技術を身につける。）

【第10回】模擬授業③（情報機器の活用と情報活用能力（メディア・リテラシー、情報モラル）を育成する。）

【第11回】模擬授業④（興味・関心の向上に向け効果的に教材等を作成・提示しファシリテーションできる。）

【第12回】模擬授業⑤（アクティブ・ラーニングの手法を用いて、生徒の思考力を深めることができる。）

【第13回】まとめ

定期試験は実施しない

※1回あたりの授業時間は105分

テキスト

『中学校学習指導要領』 文部科学省 平成29年3月公示

『高等学校学習指導要領』 文部科学省 平成30年3月公示

『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（高等学校編）』 文部科学省  
平成25年7月

『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）』 文部科学省  
令和4年3月

参考書・参考資料等

『思考力を育む教育方法』 秋山仁、浅沼茂、奈須正裕 黎明書房 2022年9月15日

学生に対する評価

授業への取り組み姿勢（毎回授業の後に提出する振り返りも含む）30%、発表（プレゼンテーション・模擬授業）30%、レポート課題40%

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北村 陽
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>学校教育全体における特別活動の意義を理解し、人間関係形成・社会参画・自己実現の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>中学校および高等学校における学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事などの特質が理解できるように、学習指導要領解説特別活動編を参考にしながら講義を行う。また、テーマごとに講義のみならず、意見共有や討論および教員からのフィードバック等を適宜加え、特別活動の望ましい構築と実践のためにはどのような知識と工夫、そして指導技術が必要になるかを受講生とともに探求しながら授業を展開していく。</p>			
授業計画			
第1回：特別活動の捉え方について ～これまでに経験した特別活動の内容を整理する～			
第2回：特別活動の目標とその意義について			
第3回：特別活動の歴史的変遷について			
第4回：教育課程における特別活動の位置付けと、各教科等との関連について			
第5回：特別活動とキャリア教育および生徒指導との関連について			
第6回：学級経営（学級活動・ホームルーム活動）の特質について			
第7回：生徒会活動および学校行事の特質と課題について			
第8回：家庭・地域社会・関係機関等との連携を視野に入れた「チーム学校」として取り組む特別活動の在り方について			
第9回：特別活動における評価について			
第10回：特別活動における取組の改善と合意形成に向けての話し合い活動について			
第11回：特別活動における具体的・実践的な指導方法① ～内容とその取扱いについて～			
第12回：特別活動における具体的・実践的な指導方法② ～指導案作成について～			
第13回：特別活動の総括（振り返り）			
定期試験は実施しない。			

※1回あたりの授業時間は105分

テキスト

- ・中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月 文部科学省）東山書房
- ・高等学校学習指導要領解説 特別活動編（平成30年7月 文部科学省）東京書籍

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

各回の授業への取り組みに関する評価としてリアクションペーパーの提出が全15回（3%×15回=45%）、担当教員の指示に基づく科目に関連した課題の提出が1回（5%）、期末レポートの提出が1回（50%）で総合的に評価する。なお、それぞれの評価基準については、授業内で事前に説明する。

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 矢野 博之
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ホームルーム活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解させる。テーマごとに講義・討論および研究発表等を適宜加え、特別活動の構築と実践のためにはどのような知識と工夫・技術が必要になるかを探求する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：プロローグ：学校教育における教育課程の理解と特別活動の位置づけ</p> <p>第2回：学習指導要領からみる特別活動の目標</p> <p>第3回：「学級活動・ホームルーム活動」の考え方と実践</p> <p>第4回：「学級活動・ホームルーム活動」と生徒集団・協働的な学び</p> <p>第5回：「生徒会活動」にみる異学年との学びと自治的活動</p> <p>第6回：「学校行事」の実際と特質（1）：スポーツ・文化的イベントの視点</p> <p>第7回：「学校行事」の実際と特質（2）：校外・宿泊学習、体験的活動の視点</p> <p>第8回：「学校行事」の実際と特質（3）：儀式・文化の理解と継承の視点</p> <p>第9回：体験から学ぶこと・運営する力を学ぶこと</p> <p>第10回：特別活動をめぐる評価と指導</p> <p>第11回：地域連携・チーム学校と特別活動（*補足的に部活動を扱う）</p> <p>第12回：現代社会の変貌と国際的な視点からの学校教育論と特別活動</p> <p>第13回：総括：特別活動の現代的課題と可能性～エピローグ</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト</p> <p>『未来の教育を創る教職教養指針9 特別活動』（矢野博之編著，学文社）</p>			

**参考書・参考資料等**

『中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月）』

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編』（以上、文部科学省）

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 特別活動』

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 特別活動』（以上、国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社）

ほか、授業中、必要に応じて適宜資料を配布し、関連文献等紹介する。

**学生に対する評価**

授業時に課す小課題（感想やリアクションペーパー）（40％）、授業内での取り組みのようすと発言や姿勢（20％）、最終的なレポート課題（40％）

授業科目名： 教育方法論 [ICT活用を含む]	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 洋行、植村 利英子、 小玉 容子 担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の方法及び技術</li> <li>・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法</li> </ul>		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>ICTを活用した教育技術についても学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育方法の古典的な理論から、コンピュータを用いた教育の現状に至るまで、実例に基づき多面的に学びます。学校現場で行われている意欲的な試みを知るとともに、自分ならどのようにしたいかを考える場とします。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：これからの子どもたちの育みたい資質・能力</p> <p>第2回：教師に求められる授業力</p> <p>第3回：授業をつくるということ・授業づくりのプロセス</p> <p>第4回：評価・学習環境のデザインとデジタル化・目標指導評価の一体化</p> <p>第5回：授業を支える指導技術（教師によるICT活用を含む）</p> <p>第6回：学習者の多様性・学びを引き出す指導技術（児童生徒によるICT活用を含む）</p> <p>第7回：学習指導案（1）学習目標の設定</p> <p>第8回：学習指導案（2）深い学びを導く教材研究</p> <p>第9回：学習指導案（3）主体的・対話的な学習過程</p> <p>第10回：学習指導案（4）学びが見える評価方法・学修履歴データの活用</p> <p>第11回：授業の魅力・効果・効率を高めるICT・デジタルコンテンツの活用</p> <p>第12回：教科を横断して情報活用能力を育てる</p> <p>第13回：まとめ：これからの学習環境・校務の効率化を支えるテクノロジーの役割</p> <p>定期試験</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
テキスト			

古賀毅・高橋優『やさしく学ぶ教職課程 教育の方法・技術とICT』、学文社、2022年

参考書・参考資料等

適宜配付する

学生に対する評価

- ・授業への参加度（授業態度、グループ討議への関わり方等）（25%）、毎回の小レポート（25%）、定期試験（50%）で評価する。

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村上 達也
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の理論及び方法</li> <li>・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</li> </ul>		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代日本の教育における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の理論と実態を把握すること。</li> <li>2. 仲間とともに集団的に議論できる力を獲得すること。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領・生徒指導提要等の内容理解および基礎理論を習得させ、現状と課題を概説する。一斉授業の中にグループ討議、ロールプレイなどを取り入れ主体的に学べるよう工夫する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：生徒指導とは</p> <p>第2回：教師の影響力：教師のリーダーシップ・全体指導と個別指導・体罰</p> <p>第3回：生徒指導の実際：学校現場における教科指導と生徒指導の一体化</p> <p>第4回：道徳性の発達：どのように道徳性を身につけるか</p> <p>第5回：生徒指導上の課題①：いじめ</p> <p>第6回：生徒指導上の課題②：不登校</p> <p>第7回：生徒指導上の課題③：校内暴力・非行</p> <p>第8回：生徒指導上の課題④：多様な児童生徒に対する対応</p> <p>第9回：学級経営：発達支持的生徒指導における学級に役割</p> <p>第10回：進路指導・キャリア教育とは</p> <p>第11回：進路指導の理論：実践を支えるためのさまざまな理論</p> <p>第12回：生徒指導の実際：学校現場におけるキャリア教育の実践</p> <p>第13回：まとめ：生徒指導と進路指導の一体化</p> <p>定期試験</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）</li> <li>・ 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）</li> <li>・ 生徒指導提要（改訂版）（令和4年12月 文部科学省）</li> </ul>			

- ・ 中学校・高等学校キャリア教育の手引き（令和5年3月 文部科学省）

参考書・参考資料等

- ・ 黒田祐二・清水貴裕・永作稔（編著）（2024）実践につながる生徒指導・キャリア教育  
北樹出版
- ・ 藤原和政・谷口弘一（編著）（2020）学校現場で役立つ教育相談：教師をめざす人の  
ために 北大路書房

学生に対する評価

授業への参加度（授業態度、グループ討議への関わり方等）（25%）、毎回の小レポート（25%）、定期試験（50%）で評価する。

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山田 建太
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の理論及び方法</li> <li>・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</li> </ul>		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代日本の教育における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の理論と実態を把握すること。</li> <li>2. 仲間とともに集団的に議論できる力を獲得すること。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>学習指導要領・生徒指導提要等の内容理解および基礎理論を習得させ、現状と課題を概説する。一斉授業の中にグループ討議、ロールプレイなどを取り入れ主体的に学べるよう工夫する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、なぜ生徒指導・進路指導を考えるか</p> <p>第2回：教育課程における生徒指導の位置づけと、その原理</p> <p>第3回：傾聴やカウンセリングの基本</p> <p>第4回：児童生徒の“障害”の捉え方と、その対応</p> <p>第5回：不登校と、教育機会の多様化</p> <p>第6回：非行、懲戒、体罰、いじめ</p> <p>第7回：プロアクティブないじめ対応について考える</p> <p>第8回：学校内外での連携・協働——チーム学校、地域</p> <p>第9回：将来に対する子ども・若者の意識を把握する</p> <p>第10回：キャリア教育の成立背景と、その原理</p> <p>第11回：PDCAで考えるキャリア教育——「Plan」の立て方</p> <p>第12回：PDCAで考えるキャリア教育——「Do」の取り組み方</p> <p>第13回：まとめと期末試験の説明</p> <p>定期試験は、第13回にて実施する。</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
テキスト			
毎時の授業で配布する資料を主な教材とする。			
参考書・参考資料等			
文部科学省、2022、『生徒指導提要（改訂版）』。			

藤田晃之，2014，『キャリア教育基礎論』実業之日本社.

学生に対する評価

毎時の小課題（40％）、期末試験（60％）で評価する。

授業科目名： 生徒理解と教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 康嗣
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1)教育相談の意義や理論を理解する。</p> <p>(2)教育相談を進める際に必要な基礎的知識や技法を身につける。</p> <p>(3)教育相談の組織的取組みや連携の意義や必要性を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育相談は、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。ここでは、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や現代の教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的知識を含む）を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 教育相談とは 生徒理解とは 教育相談の目指すもの</p> <p>第2回： 教育現場で役立つカウンセリング理論と技法</p> <p>第3回： 学級経営に活かす教育相談：アセスメント(hyper-QUを含む)とインターバージョン</p> <p>第4回： 学級経営に活かす教育相談：構成的グループエンカウンター具体的な介入方法</p> <p>第5回： 学級経営に活かす教育相談：具体的な介入方法（学級開き）</p> <p>第6回： 学級経営に活かす教育相談：ソーシャルスキルトレーニング</p> <p>第7回： ケーススタディ：生活指導</p> <p>第8回： ケーススタディ：不登校</p> <p>第9回： ケーススタディ：保護者対応</p> <p>第10回： ケーススタディ：いじめ</p> <p>第11回： ケーススタディ：特別支援教育</p> <p>第12回： 認める指導を軸とした学校の体制構築：スクールワイドPBS</p> <p>第13回： 学年末に行うふりかえりと学級じまい</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
テキスト			

授業時に適宜配付する

参考書・参考資料等

中学生の自律を育てる学級づくり 田中輝美・鹿嶋真弓 金子書房 2014

教師のたまごのための教育相談（改訂版） 会沢信彦・安齊順子 北樹出版 2017

教育相談の理論と実際 一改訂版一 河村茂雄編著 書文化社 2019

学生に対する評価

リアクションペーパー、グループ討議、授業への取り組み姿勢（50%）、レポート2回（50%）  
をもとに総合的に評価する。

授業科目名： 生徒理解と教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鹿嶋（佐藤） 真弓
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
(1)教育相談の意義や理論を理解する。 (2)教育相談を進める際に必要な基礎的知識や技法を身につける。 (3)教育相談の組織的取組みや連携の意義や必要性を理解する。			
授業の概要			
教育相談は、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。ここでは、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や現代の教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的知識を含む）を身につける。			
授業計画			
第1回： 教育相談における基本となるマインド			
第2回： 教育現場で役立つカウンセリング理論			
第3回： 教育現場で役立つカウンセリング技法			
第4回： 生徒理解と蓄積データ			
第5回： 学級経営に活かす教育相談：構成的グループエンカウンター具体的な介入方法			
第6回： 学級経営に活かす教育相談：構成的グループエンカウンターの実際			
第7回： 学級経営に活かす教育相談：ソーシャルスキルトレーニング			
第8回： 生徒理解：姿勢がもたらす社会的、身体的、精神的影響			
第9回： ケーススタディ：生活指導			
第10回： ケーススタディ：いじめ			
第11回： ケーススタディ：不登校			
第12回： ケーススタディ：特別支援教育			
第13回： ケーススタディ：ブリーフミーティング			
定期試験は実施しない			
※1回あたりの授業時間は105分			
テキスト			

授業中に適宜配付する

参考書・参考資料等

中学生の自律を育てる学級づくり（田中輝美・鹿嶋真弓著、金子書房）

教師のたまごのための教育相談（改訂版）（会沢信彦・安齊順子著、北樹出版）

学生に対する評価

リアクションペーパー、グループ・ディスカッションおよび授業への取り組み姿勢（60%）、  
課題レポート（40%）

授業科目名： 生徒理解と教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野田 満
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1)教育相談の意義や理論を理解する。</p> <p>(2)教育相談を進める際に必要な基礎的知識や技法を身につける。</p> <p>(3)教育相談の組織的取組みや連携の意義や必要性を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育相談は、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。ここでは、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や現代の教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的知識を含む）を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育相談の意義、歴史と現代的課題</p> <p>第2回：教育相談にかかわる心理学</p> <p>第3回：子どもの発するシグナルをどう受け止めるか</p> <p>第4回：問題行動の把握とシグナル</p> <p>第5回：自尊感情と受容・共感・傾聴</p> <p>第6回：不適応に陥らないために</p> <p>第7回：いじめ・非行など反社会的行動、虐待</p> <p>第8回：不登校などの非社会的行動</p> <p>第9回：生徒理解のためのグループ討議の準備（自尊感情、事例）</p> <p>第10回：自尊感情と教育場面（受容・共感・傾聴とカウンセリング技法）</p> <p>第11回：事例に基づく教育場面（受容・共感・傾聴とカウンセリング技法）</p> <p>第12回：教育相談のロールプレイ</p> <p>第13回：総括</p> <p>定期試験は実施しない。</p> <p>※1回あたりの授業時間は105分</p>			
テキスト			

授業時に適宜配付する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜指示する。

学生に対する評価

最終週の授業内でのレポート（60%）、毎回行うリアクションペーパー（20%）、班での発表（20%）、それぞれの割合を目安とする。リアクションペーパーは授業の振り返り。また最終週でのレポートは、課題を事前に告げ準備してきてもらうが、それまでの授業と深く関わりのある内容となる。Web Classに提出。

## シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習 [中・高]		単位数：2単位	担当教員名：鹿嶋（佐藤） 真弓、大島英樹、岡田 愛、村上 達也、高橋 洋行、村上 美奈子 担当形態：クラス分け・単独		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 25人 (6クラスで実施)					
<b>教員の連携・協力体制</b> 教職実践演習 [中・高] は、教職教育センター担当教員が各々のクラスを担当するため、演習課題や評価については担当教員同士での情報共有を図り、教育水準の確保と評価の均衡化に努めている。また、必要に応じて各学部のゼミ担当教員とも情報交換を行い、教職課程での指導につなげている。					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 教員になるうえで、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになること。					
<b>授業の概要</b> この科目は、教職課程の「学びの軌跡の集大成」として、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程以外での様々な活動をつうじて、教員として最小限必要な資質能力を学生が身に付けたか否かを最終的に確認することを目的とする。教職課程の学修開始時から学生が作成してきた「履修カルテ」は、学修の振り返りや個別の補完的な指導に活用する。					
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション：教職実践演習とは 第2回：教育実習の振り返り① 実習校と実習生活に関する振り返り 第3回：教育実習の振り返り② 生徒指導に関する振り返り 第4回：教育実習の振り返り③ 教科指導に関する振り返り(ICT活用事例を含む) 第5回：教育実習の振り返り④ 学級経営に関する振り返り 第6回：教師の資質・能力について①： 「使命感や責任感、教育的愛情」「社会性や対人関係能力」 第7回：教師の資質・能力について②： 「生徒理解や学校経営」「教科内容等の指導力」(ICT活用事例を含む) 第8回：教職課程の振り返り① 教職に関する科目についての振り返り(ICT活用事例を含む) 第9回：教職課程の振り返り② 教科に関する科目についての振り返り(ICT活用事例を含む) 第10回：これまでの教職に関する学びについて①：グループワーク 第11回：これまでの教職に関する学びについて②：全体討議 第12回：教師のこれからの学びとキャリア形成 第13回：まとめ 定期試験は実施しない					

※1回あたりの授業時間は105分

テキスト

- ・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
- ・ 【取得予定科目に関する】中学校／高等学校学習指導要領解説
- ・ 生徒指導提要（改訂版）（令和4年12月 文部科学省）

参考書・参考資料等

- ・ 授業内で適宜配付する
- ・ 『履修カルテ』（大学所定の書式に各自で記入し、教職ガイダンス等で配布された資料をまとめて作成しておくこと）

学生に対する評価

授業への取り組み姿勢およびグループワークへの参加（60%）、授業内での個人およびグループ発表等（40%）によって総合的に評価する。なお、履修カルテの提出は必須とする。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。